

2-3 調査地点詳細説明

地点番号1 鷓川町, 汐見漁港

位置: N42° 32' 52" , E 141° 56' 27"

測定根拠: 目撃証言

津波高: 48 cm (10月1日19時11分(測量), 9月26日14時0分(目撃証言を得る))

聞き取り事項: 「津波は岸壁すれすれまで何度も来た」という証言あり。



図 1-1 汐見漁港。26日の調査時にも水位の変動はあった。

地点番号2 門別町門別漁港

位置: N42° 28' 24" E142° 04' 29"

測定根拠: 目撃証言。岸壁の高さまで潮位上昇した。

測定高: 60 cm (9月30日17時18分)

聞き取り事項: 津波は漁港内06時10分頃引きで発見、来襲間隔はだいたい15分、津波は約7時間続いた、高さの最大は06時35分。周期が長く徐々に水が湧いたような状況。津波が押ししてくる時に「縁をたたくような(ピタピタ)音」を感じた。地震直後に沖へ船を出したので被害はなかった。津波予報は05時に自宅でFMラジオにより聞いた(テレビは停電で使用不可)。放送内容は、津波警報のアラームとお知らせ(門別漁業組合職員による)。

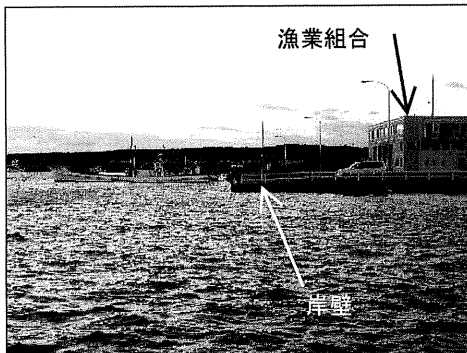


図 2-1 門別漁港と漁業組合



図 2-2 目撃証言による津波の高さ

地点番号3 静内川河口

位置：N42° 19′ 53″ E142° 22′ 04″

測定根拠：浮遊物

測定高：115 cm (9月27日8時32分)

聞き取り事項：なし

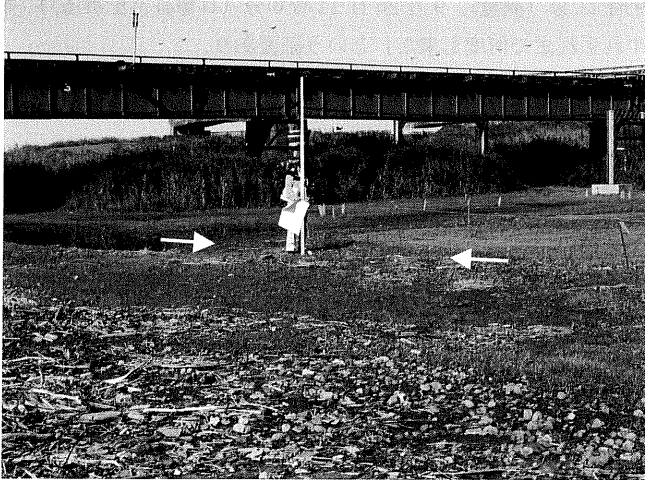


図 3-1 河川敷き沿いに残された津波の痕跡（枯れた葦などの浮遊物）。痕跡が一直線上で明瞭であった。

地点番号4 静内川河口

位置：N42° 19′ 53″ E142° 22′ 04″

測定根拠：浮遊物

測定高：84 cm (9月27日8時32分)

聞き取り事項：なし

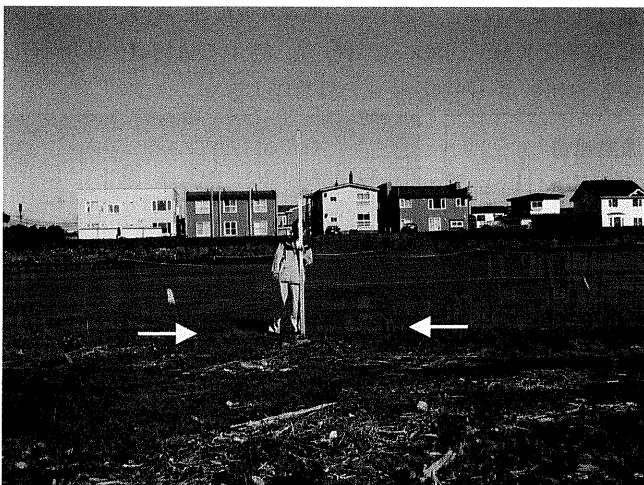


図 4-1 少し上流の河川敷きに見られた津波の痕跡。

地点番号 5 静内町入船

位置：N42° 19′ 31″ E142° 22′ 14″

測定根拠：浮遊物

測定高：102 cm (9月27日9時12分)

聞き取り事項：なし



図 5-1 砂浜海岸に残された津波の痕跡（昆布や沿岸での浮遊物）

昆布は新しいものが打ち上げられていた。海底に繁殖する昆布は、高波では移動しないが、長周期波である津波により海底での剪断力により移動しやすい。

地点番号 6 静内町入船

位置：N42° 19′ 31″ E142° 22′ 14″

測定根拠：浮遊物

測定高：127 cm (9月27日9時12分)

聞き取り事項：なし

地点番号 7 静内町東静内

位置：N42° 18′ 04″ E142° 27′ 03″

測定根拠：浮遊物

測定高：179 cm (9月27日9時40分)

聞き取り事項：なし

地点番号 8 三石町三石川右岸

位置：N42° 14' 43" E142° 32' 12"

測定根拠：浮遊物

測定高：224 cm (9月27日10時13分)

聞き取り事項：なし



図 6-1 沿岸に残された浮遊物。直線状に残された痕跡は、非常に新しいものである。

地点番号 9 三石町海浜公園

位置：N42° 13' 16" E142° 37' 46"

測定根拠：浮遊物

測定高：206 cm (9月27日10時47分)

聞き取り事項：なし

地点番号 10 浦河町荻伏

位置：N42° 11' 34" E142° 40' 38"

測定根拠：浮遊物

測定高：248 cm (9月27日11時13分)

聞き取り事項：なし

地点番号 11 浦河町絵笛川

位置：N42° 11' 06" E142° 43' 17"

測定根拠：浮遊物

測定高：298 cm (9月27日11時35分)

聞き取り事項：なし

地点番号 12 浦河町日高幌別川河口

位置 : N42° 08' 28" E142° 50' 36"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 215 cm (9月27日13時19分)

聞き取り事項 : なし

地点番号 13 浦河町浦河港

位置 : N42° 09' 53" E142° 46' 20"

測定根拠 : 目撃証言。浦河海上保安署駐車場前の岸壁の巨大津波計設置地点まで遡上した。

測定高 : 140 cm (9月27日12時00分)

聞き取り事項 : 06時25分前後の3回目の津波が大きかった (海上保安署職員による)。

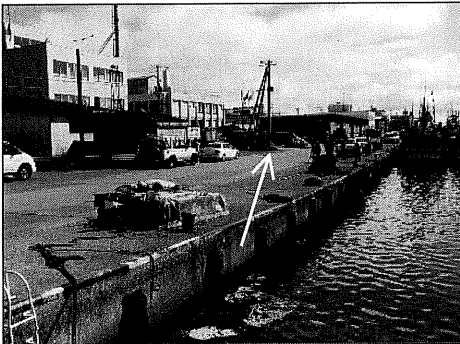


図 13-1 浦河海上保安署前の目撃による津波の遡上場所

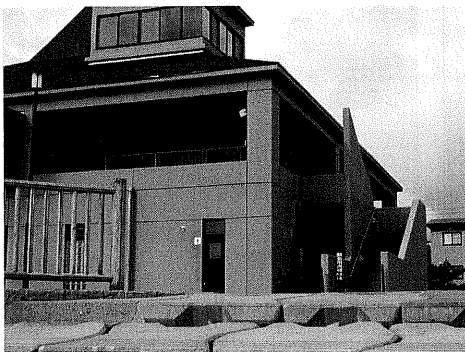
地点番号 14 様似町西町

位置 : N42° 07' 58" E142° 54' 31"

測定根拠 : 目撃証言

測定高 : 257 cm (9月27日13時51分)

聞き取り事項 : なし



海水浴場にあるビジターセンター。階段の入り口には、「緊急用避難階段」と案内はあったが、手前にロープが貼っていた。

地点番号 15 様似町西町, 海水浴場

位置 : N42° 07' 56" E142° 54' 13"

測定根拠 : 目撃証言

測定高 : 280 cm (9月27日10時00分)

聞き取り事項 : なし



図 15-1 海水浴場から続くステップ.

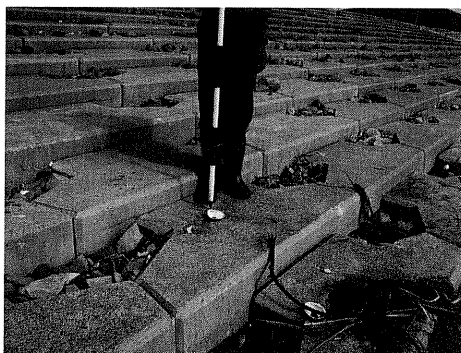


図 15-2 貝, 草, 砂の分布域を津波の浸水域と推定した.

地点番号 16 様似町西町

位置 : N42° 07' 53" E142° 54' 40"

測定根拠 : 親子岩ビーチの護岸堤および砂浜のゴミ浮遊物。

測定高 : 180 cm (2003年9月27日14時38分)

聞き取り事項 : 引き波で海岸から 500m くらい沖の海底が見えた (浜で清掃作業をしていた人による)。

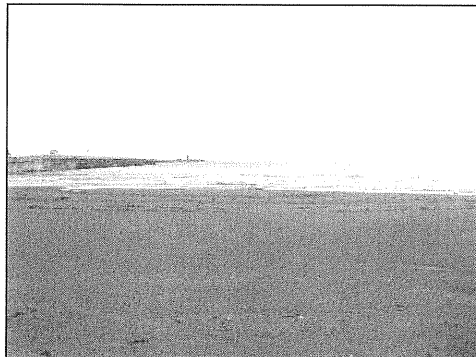


図 16-1 親子岩ビーチの状況



図 16-2 護岸堤のゴミ

地点番号 17 様似町幌満, トンネル西側

位置 : N42° 05' 01" E143° 00' 30"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 128 cm (10月1日 13時47分)

聞き取り事項 : なし



図 17-1 国道から見た調査地点の全景.



図 17-2 浮遊物帯が堤防の手前に形成されていた.

地点番号 18 様似町旭漁港

位置 : N42° 03' 49" E143° 03' 51"

測定根拠 : 目撃証言と漁港内の船揚場 (小型漁船引き上げ用) のコンクリート坂のゴミと木片。

測定高 : 205 cm (9月30日 10時0分)

聞き取り事項 : 津波は2回、第1波は04時50分の後、第2波は06時08分の後 (住民)。



図 18-1 旭漁港の船揚場のゴミや木片

地点番号 19 えりも町笛舞漁港, 港外西側

位置 : N42° 02' 46" E143° 06' 06"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 167 cm (10月1日12時53分)

聞き取り事項 : なし



図 19-1 昆布拾い場から続く砂浜.



図 19-2 草地の上に分布する浮遊物帯.

地点番号 20 えりも町笛舞漁港

位置 : 岸壁 N42° 02' 37" E143° 06' 10"

測定根拠 : 目撃証言。津波の最高水位が地上約 1 m だった。

測定高 : 160 cm (10月2日12時27分)

聞き取り事項 :

- (1) 津波の最大波到達時刻は最大余震より前で 05 時 45 分頃、第 1 波が最大 (えりも漁協近笛支所職員による)。
- (2) 津波の始まり時刻は 2 回目の地震発生前で 06 時前と思うが確認していない。津波の最高水位は地上高約 1m。津波の予兆等気づいたことは特になし。被害状況等は、岸壁に駐車していた船員の乗用車 (軽トラック含む) 12~13 台が津波の被害を受け、うち 1 台が海中に転落した。また、船舶は津波による船同士の接触で軽微な損傷を受けた。津波予報は、漁協事務所で防災無線及び広報車等で聞いたが時刻は不明 (えりも漁協近笛支所職員による)。

地点番号 21 えりも町えりも港

位置 : N42° 01' 07" E143° 08' 35"

測定根拠 : 目撃証言。津波の最大時には岸壁水平面からの地上高約 1.5m まで浸水した。

測定高 : 255 cm (10月2日11時19分)

聞き取り事項 :

- (1) 津波の最大波到達時刻は最大余震より前で 05 時 30 分から 06 時 00 分の間、どちらかと言えば 06 時頃に近い (地震当日目撃者からの又聞きした船員による)。
- (2) 津波の始まり時刻は 05 時 30 分前後 (だいたい時刻) で、津波の最高水位は地上高約 1.5m (軽トラックの天井部分の高さ)。津波の予兆等気づいたことは特になし。津波予報は漁協事務所で 05 時 20 分頃 (津波の来襲する 10 分位前) にラジオで聞き、その後町の防災無線でも何回か聞いた (えりも漁協職員による)。

地点番号 22 えりも町歌別漁港

位置：N41° 59' 34" E143° 09' 41"

測定根拠：目撃証言。歌別漁港岸壁の公衆トイレ前まで遡上した。

測定高：60 cm (2003年9月27日17時23分)

聞き取り事項：05時20分～25分の第2波と第3波が大きかった(港前の民家の住人による)。



図 22-1 歌別漁港の測定位置

地点番号 23 えりも町歌別東

位置：N41° 59' 42" E143° 09' 41"

測定根拠：浮遊物

測定高：95 cm (10月1日11時39分)

聞き取り事項：なし

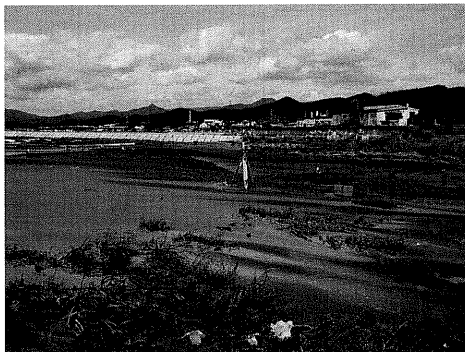


図 23-1 国道の海側にある狭く平坦な砂地。

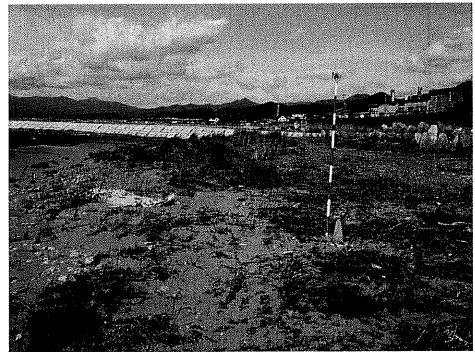


図 23-2 砂地の上にある浮遊物帯。

地点番号 24 えりも町歌別東

位置：N41° 58' 58" E143° 09' 49"

測定根拠：海岸痕跡。倒された植物を見つけ、また、その高さより上方にあるロープ等の漁具類が散乱していなかったことから津波の痕跡高さを確定した。

測定高：149 cm (10月5日13時40分)

聞き取り事項：なし

地点番号 25 えりも町東洋

位置：N41° 57' 20" E143° 12' 24"

測定根拠：浮遊物

測定高：219 cm (9月27日 11時18分)

聞き取り事項：なし

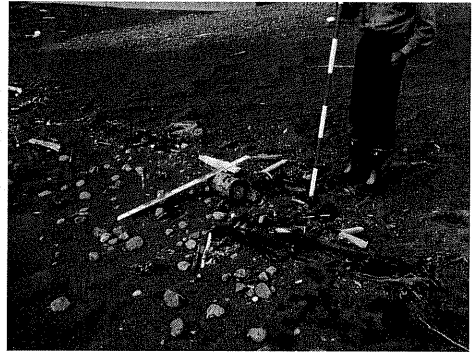


図 25-1 津波の浸水範囲は昆布干場の途中まで。 図 25-2 草、昆布、木片からなる浮遊物帯。

地点番号 26 えりも町東洋漁港

位置：N41° 56' 50" E143° 13' 07"

測定根拠：目撃証言。東洋漁協前岸壁に遡上した。

測定高：70 cm (9月27日 15時44分)

聞き取り事項：津波は岸壁を超え、岸壁から7mくらいの所まで遡上した（漁協職員による）。

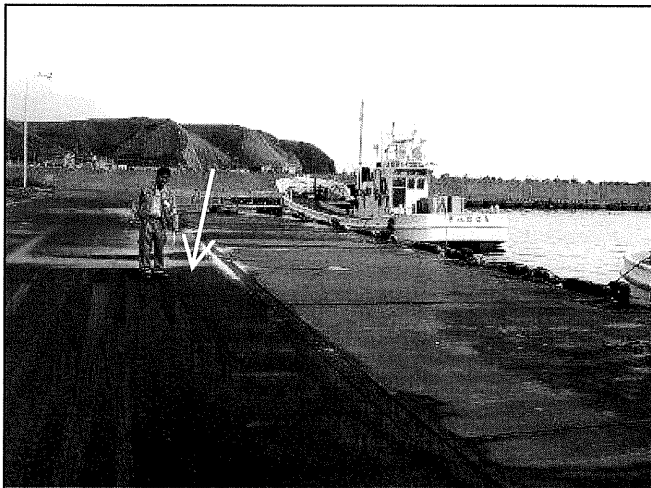


図 26-1 東洋漁港の目撃による津波遡上場所

地点番号：27 えりも町襟裳岬，岬の先端

位置：N41° 55′ 32″ E143° 14′ 57″

測定根拠：浮遊物

測定高：270 cm (9月27日15時36分)

聞き取り事項：なし



図 27-1 海岸(磯浜)から続く斜面の途中にある津波の痕跡。



図 27-2 左が海. 草を陸側に倒して分布する浮遊物帯。

地点番号 28 えりも町襟裳岬漁港

位置：N41° 56′ 01″ E143° 14′ 37″ (襟裳岬漁港から0.2km南)

測定根拠：砂浜の木片。

測定高：330 cm (9月30日10時40分)

聞き取り事項：なし



図 28-1 襟裳岬漁港と南側の砂浜の状況



図 28-2 砂浜の木片

地点番号 29 えりも町襟裳岬漁港

位置：N41° 56′ 07″ E143° 14′ 39″

測定根拠：岸壁横の草倒や木片。

測定高：205 cm (9月30日10時50分)

聞き取り事項：防波堤の「みんなの漁港・・・」の文字が水没した(住民による)。文字の上端までの高さを海面上335 cmと測量したが、水平距離約100mあり測量誤差大きい。



図 29-1 襟裳岬漁港の道路横の倒草や木片

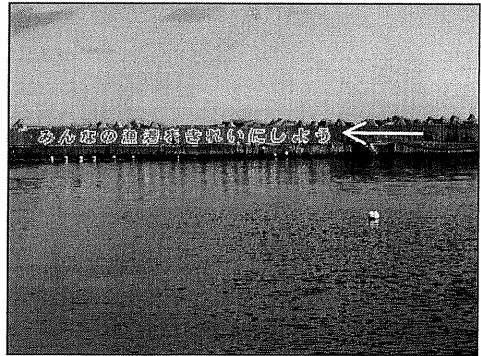


図 29-2 津波で隠れた文字

地点番号 30 えりも町襟裳岬漁港

位置：N41° 56′ 09″ E143° 14′ 39″

測定根拠：岸壁上の市場前の道路脇草むらに残るゴミなど。

測定高：140 cm (9月27日16時07分)

聞き取り事項：秋サケを入れたタンクが流された(漁協支所職員による)。



図 30-1 襟裳岬漁港の草に残るゴミや木片



図 30-2 道路脇の倒草

地点番号 31 えりも町襟裳岬北

位置：N41° 56′ 49″ E143° 14′ 24″

測定根拠：浮遊物

測定高：255 cm (10月1日9時56分)

聞き取り事項：なし



図 31-1 海岸(砂浜)から続く斜面の途中にある津波の痕跡。 図 31-2 草を陸側に倒して分布する浮遊物帯。

地点番号 32 えりも町百人浜

位置：N41° 56′ 47″ E143° 14′ 24″ (襟裳岬漁港から 1.3km 北)

測定根拠：砂浜の木片。

測定高：240 cm (9月29日15時42分)

聞き取り事項：

- (1) 津波は 05 時頃発現、来襲間隔は約 10 分間隔、約 3 時間継続し、高さの最大は 05 時 05 分～10 分。津波の前兆の音は聞こえない。えりも岬漁港で船が流されていた。津波警報は自宅において防災無線で聞き、高台の安全な場所に避難した(襟裳岬漁港から 1.8km 北の民家の住民による)。
- (2) 06 時頃が最大波、防波堤は越えなかった(襟裳岬漁港から 1.8km 北の昆布干場付近の住民による)。



図 32-1 百人浜の測定位置



図 32-1 砂浜の木片

地点番号 33 えりも町百人浜

位置：N41° 57′ 33″ E143° 14′ 33″（襟裳岬漁港から 2.6km 北）

測定根拠：砂浜の木片。

測定高：310 cm（9月 29 日 17 時 05 分）

聞き取り事項：なし



図 33-1 百人浜の津波の遡上地点



図 33-2 砂浜の木片

地点番号 34 えりも町百人浜

位置：N41° 57′ 34″ E143° 14′ 33″（えりも岬漁港から 2.7km 北）

測定根拠：傾斜のなだらかな砂浜が海面から約 35m あり、そこから高さが 2m の海岸段丘上の砂地にある木片（海面から 40m 地点）。

測定高：390 cm（9月 30 日 11 時 25 分）

聞き取り事項：なし

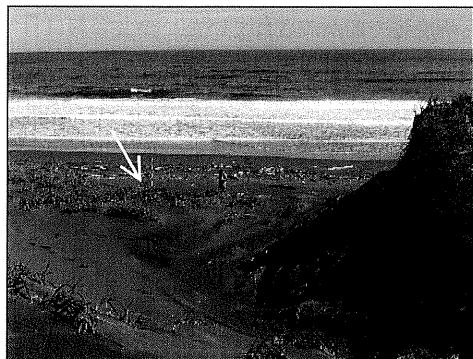


図 34-1 海岸段丘の上から見た海岸と測定地点



図 34-2 砂地の木片の列

地点番号 35 えりも町百人浜南

位置：N41° 57′ 30″ E143° 14′ 33″

測定根拠：浮遊物

測定高：401 cm (9月27日12時17分)

聞き取り事項：なし

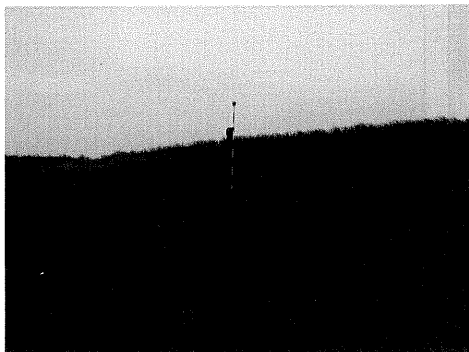


図 35-1 低い海岸段丘の上に津波により運ばれた浮遊物があった。



図 35-2 段丘上の津波痕跡。

地点番号 36 えりも町百人浜

位置：N41° 58′ 06″ E143° 14′ 38″ (襟裳岬漁港から3.6km北)

測定根拠：砂浜の海岸段丘の崖面にある木片。

測定高：345 cm (9月29日17時57分)

聞き取り事項：なし



図 36-1 海岸段丘の崖面の状況と測定地点



図 36-2 崖面に残る木片

地点番号 37 えりも町百人浜

位置 : N41° 59' 45" E143° 15' 16" (襟裳岬漁港から 6.7km 北)

測定根拠 : 砂浜の木片。

測定高 : 320 cm (9月30日12時00分)

聞き取り事項 : なし

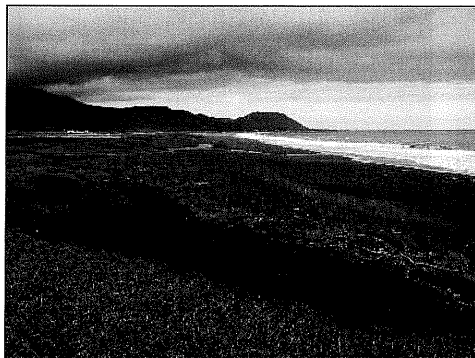


図 37-1 調査地点付近の百人浜の状況

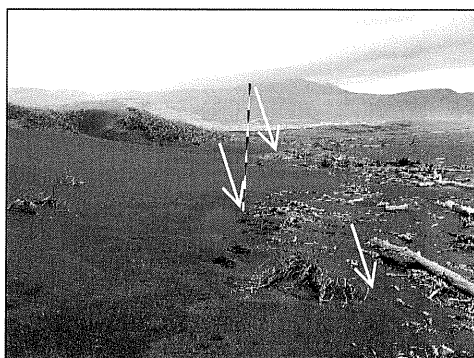


図 37-2 砂浜の木片の列

地点番号 38 えりも町百人浜中央

位置 : N41° 59' 39" E143° 15' 14"

測定根拠 : その他の痕跡, 浮遊物

測定高 : 304 cm (9月27日14時50分)

聞き取り事項 : なし



図 38-1 砂浜斜面上の津波痕跡. 左が海.



図 38-2 風によるリップルマークを消した波の跡.

地点番号 39 えりも町百人浜

位置 : N41° 59' 52" E143° 15' 17" (襟裳岬漁港から 6.9km 北)

測定根拠 : 海面から 190m 入り込んだ砂浜から草地に変わるところの倒木や木片。

測定高 : 255 cm (9 月 30 日 12 時 30 分)

聞き取り事項 : なし



図 39-1 海岸から 190m の草地の状況



図 39-2 列をつくる草地に残された木片や倒草

地点番号 40 えりも町百人浜北端

位置 : N42° 01' 23" E143° 16' 34"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 295 cm (9 月 27 日 13 時 25 分)

聞き取り事項 : なし



図 40-1 低い海岸段丘の上に津波により運ばれた浮遊物があった。



図 40-2 段丘上の津波痕跡

地点番号 41 えりも町庶野漁港

位置：N42° 02' 35" E143° 17' 45 (漁港にある検潮所小屋付近)

測定根拠：目撃証言。小屋の脇に立って成人男性の腰の高さ。

測定高：190cm (9月27日17時19分)

聞き取り事項：第一波が最も高かった。小屋の脇に立って成人男性の腰の高さまで津波が来た。(漁港で作業中の二、三十代男性。)



備考：

この小屋が検潮所であることが、後に判明した。また、成人男性の腰の高さは、地面から約1mの高さとして測定した。

図 41-1 庶野漁港の津波遡上高を測定した小屋

地点番号 42 えりも町庶野漁港

位置：N42° 02' 39" E143° 17' 52"

測定根拠：目撃証言による。岸壁上の漁協前民家の車庫まで遡上した。

測定高：150cm (9月27日16時46分)

聞き取り事項：津波が民家の車庫の中に水深10cm程度浸水してきた(民家の住人による)。

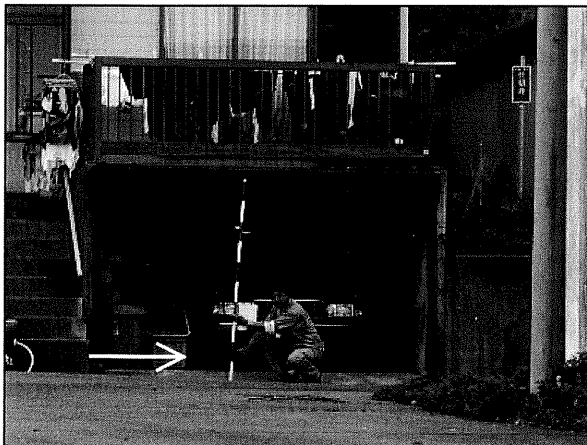


図 42-1 目撃証言による津波の高さ

地点番号 43 えりも町庶野

位置 : N42° 03' 00" E143° 18' 30"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 235 cm (9月27日14時08分)

聞き取り事項 : なし



図 43-1 海岸(礫浜)から続く斜面の途中にまで津波の痕跡。



図 43-2 草を陸側に倒して分布する浮遊物帯。

地点番号 44 えりも町目黒

位置 : N42° 07' 30" E143° 19' 00"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 195 cm (9月27日16時35分)

聞き取り事項 : なし



図 44-1 猿留川河口付近の津波痕跡。

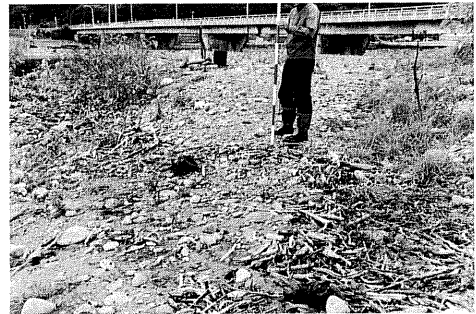


図 44-2 主に木片からなる浮遊物帯。

地点番号 45 広尾町音調津漁港

位置 : N42° 13' 29" E143° 19' 07" (漁港内の昆布干場)

測定根拠 : 目撃証言および浮遊物。昆布干場に残された木片の列(目撃証言により確認)。

測定高 : 201cm (9月27日16時30分)

聞き取り事項 : 第一波が最も高かった。地震を感じてから10分後には海面が盛り上がる感じだった。夕方まで、潮位の上下は続いた。(昆布漁を営む漁師。三十代男性。)

地点番号 46 広尾町音調津

位置：N42° 13' 37" E143° 18' 57"

測定根拠：浮遊物，その他の痕跡（めくれた草）

測定高：259 cm（9月27日17時13分）

聞き取り事項：なし

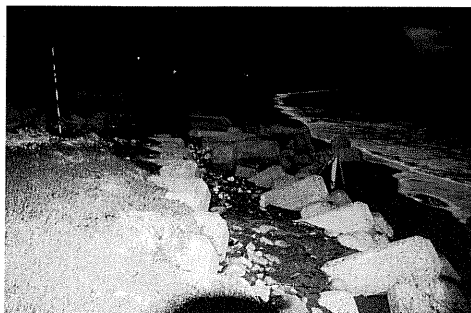


図 46-1 堤防手前の小規模な草地.



図 46-2 草の表面の一部が陸側にめくれ上がっていた.

地点番号 47 広尾川南（広尾川河口の南）

位置：N42° 21' 48" E143° 19' 04"

測定根拠：砂浜に打ち上げられた昆布，木片

測定高：2.70m（9月28日16時40分）

聞き取り事項：なし



図 47-1 砂浜に残された津波の痕跡（津波によって打ち上げられた木片）

地点番号 48 広尾町十勝港

位置：N42° 17' 26" E143° 19' 05"

測定根拠：日通事務所建物裏（目撃証言による浮遊物）

測定高：190cm（9月27日16時45分）

聞き取り事項：事務所員へのヒアリング「5時頃事務所に来た。目的は港内の被害の把握と船舶の沖出しの段取り」、「津波の来襲は地震後20分くらいしてからだった」、「浸水したのは第一波によるもの」

地点番号 49 広尾町十勝港

位置：N42° 17' 22" E143° 19' 13"

測定根拠：岸壁そばの倉庫壁面の痕跡

測定高：227cm（9月27日16時55分）

聞き取り事項：なし



図 49-1 十勝港の岸壁付近倉庫



図 49-2 十勝港内の漂流物

地点番号 50-55 広尾町十勝港

位置：N42° 17' 22" E143° 19' 13"

測定根拠：建造物痕跡

測定高：343cm, 350cm, 284cm, 310cm, 299cm, 307cm（9月28日9時3分）

聞き取り事項：なし



図 50-1 水塊が長時間滞留していたので、壁の色が変化している。（地点番号 50）



図 51-1 津波が運び込んだと思われる泥が乾燥した細かな砂粒子が残されている。

地点番号 56-60 広尾町十勝港

位置: N42° 17' 10" , E143° 19' 18"

測定根拠: 建造物痕跡

津波高: 312cm, 320cm, 307cm, 310cm, 348cm (9月28日9時21分-40分)

聞き取り事項: なし

地点番号 61-74 広尾町十勝港

位置: N42° 17' 14" , E143° 19' 14"

測定根拠: 建造物痕跡

津波高: 300cm, 299cm, 299cm, 303cm, 300cm, 300cm, 296cm, 295cm, 298cm, 308cm, 308cm, 289cm, 315cm, 314cm (9月28日8時51分-9時42分)

聞き取り事項: なし

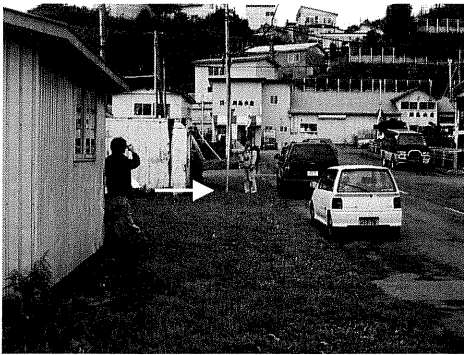


図 61-1 道路沿いにある(路肩)の低い草が倒れており、かつゴミのような漂流物が残されていた。(地点番号 61)



図 62-1 壁近くの津波痕跡(漂流物)。かなりの固まりが津波の水塊により移動し、まとまったと思われる。



図 63-1 漁港の船着き場に残された大量の土砂。津波来襲と共に港内の海底にあった土砂が巻き上げられ、陸上に残された。

地点番号 75 広尾町十勝港

位置: N42° 17' 50" , E143° 19' 22" (北海道開発局の検潮所付近)

測定根拠: 建造物痕跡。倉庫の外壁と扉に残された泥の線。

測定高: 207cm (9月27日14時45分)

聞き取り事項: 第一波が最も高かった。(検潮所近くで) 波は南側から埠頭に押し寄せた。埠頭にある倉庫には土嚢が置かれていたが、浸水したため、作り直しの作業をしているようだ。埠頭に駐車していた車は1ブロック先の金網のところまで流されていた。(港に停泊中の作業船の職員。四、五十代男性。)



図 75-1 十勝港内の津波の痕跡

地点番号 76 広尾町十勝港

位置: N42° 17' 56" , E143° 19' 24"

測定根拠: 建物についたシミ (第3埠頭の根元部の建物)

津波高: 255cm (9月27日14時40分)

聞き取り事項: なし

地点番号 77 広尾町十勝港

位置: N42° 17' 11" , E143° 19' 22"

測定根拠: 漁協施設のガラス戸のシミ (十勝港の南端の漁港地区)

津波高: 205cm (9月27日15時20分)

聞き取り事項: なし

地点番号 78 広尾町新生海岸, 野塚川右岸

位置: N42° 20' 27" , E143° 20' 29"

測定根拠: 浮遊物

津波高: 229cm (9月30日9時40分)

聞き取り事項: なし



図 78-1 野塚川右岸の礫浜.



図 78-2 礫浜上の浮遊物帯.

地点番号 79 広尾町豊似川, 河口左岸

位置: N42° 20' 27" , E143° 20' 29"

測定根拠: 浮遊物

津波高: 313cm (9月30日9時40分)

聞き取り事項: なし



図 79-1 砂浜に分布する浮遊物帯.



図 79-2 主に木片からなる浮遊物帯.

地点番号 80 大樹町旭浜

位置 : N42° 25' 09" E143° 23' 30"

測定根拠 : 港内の浮遊物

測定高 : 139cm (9月27日13時55分)

聞き取り事項 :

中一児童「付近の中島小学校へ避難した。避難所にいたのは10から20人。避難には車を使用した」

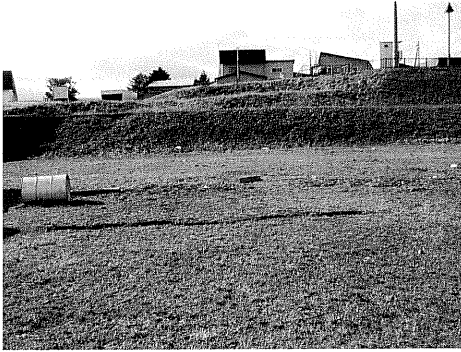


図 80-1 大樹町旭浜 津波による浮遊物



図 80-2 大樹町旭浜漁港

小6児童「家が高台にあるため隣の人と相談して家にとどまることにした」

地点番号 81 大樹町旭浜 (浜大樹漁港から 5km 南南西)

位置 : N42° 26' 12" E143° 24' 11"

測定根拠 : 砂浜に打ち上げられた木片

測定高 : 294cm (9月28日14時15分)

聞き取り事項 : なし



図 81-1 津波が遡上した痕跡



図 81-2 津波によって運ばれた木片

地点番号 82 大樹町旭浜

位置: N42° 26' 13", E143° 24' 13"

測定根拠: 浮遊物

津波高: 326cm (9月28日10時8分)

聞き取り事項: なし



図 82-1 砂浜に分布する浮遊物帯.



図 82-2 主に木片からなる浮遊物帯.

地点番号 83 大樹町浜大樹

位置: N42° 26' 13", E143° 24' 44"

測定根拠: 浮遊物

津波高: 328cm (9月30日12時40分)

聞き取り事項: なし



図 83-1 砂浜に分布する浮遊物帯.



図 83-2 主に木片からなる浮遊物帯.

地点番号 84 大樹町浜大樹

位置：N42° 28' 17" E143° 25' 48"

測定根拠：砂浜に残るゴミや浮遊物。

測定高：300 cm (9月28日13時58分)

聞き取り事項：なし



図 84-1 浜大樹海岸のゴミや浮遊物

地点番号 85 大樹町浜大樹

位置：N42° 28' 36" E143° 25' 54"

測定根拠：建造物痕跡

測定高：238cm (10月1日15時25分 基準点より測定)

聞き取り事項：

(1) 漁協職員へのヒアリング「午前5時15分頃出勤したら、津波が来襲していた。漁協の外壁に浸水線（泥水に浸っていた痕跡）が付いていた。石碑の背後に停っていたタンクローリー車のタイヤの半分の高さまで浸水した。その付近のドラム缶も流された。引き潮ははっきり分かり、川のようなだった。」

(2) 漁師へのヒアリング「第1波で車が浮かんで漂流した。漁協1階に置いてあった木の台やカゴが流された。木の台は沖まで流された。第2波目は水面の上がり下がり15分程度であった。引きの時には港の浅い場所の底が見えた。」

(3) 住民へのヒアリング「午前5時過ぎに避難したのだが、その前に津波が来襲していた。」



図 85-1 外壁に浸水線が残っていた漁協



図 85-2 外壁の浸水線

地点番号 86 大樹町浜大樹

位置 : N42° 28' 35" E143° 25' 53"

測定根拠 : 漁港内トイレ壁面の痕跡

測定高 : 262cm (9月27日15時10分)

聞き取り事項 :

漁協の漁師「地震発生時は出漁の準備をしていた(秋鮭)。揺れの後海面が引いた。出漁の準備をしていたため船のエンジンはかかっていた。すぐに沖だした」

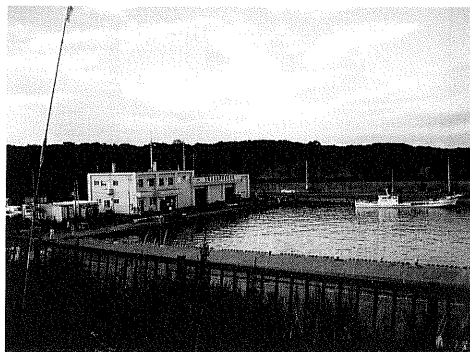


図 86-1 浜大樹漁港



図 86-2 痕跡のあった漁港内トイレ建物(写真左)

地点番号 87 大樹町浜大樹(浜大樹漁港内)

位置 : N42° 28' 30" E143° 25' 56"

測定根拠 : 構造物の壁面に付着した浮遊物

測定高 : 300cm (9月28日10時40分)

聞き取り事項 : なし



図 87-1 浜大樹港内に残された津波の痕跡



図 87-2 構造物の壁面に付着した浮遊物によって示される遡上高

地点番号 88 大樹町浜大樹（アイホシマ川河口の北）

位置：N42° 28′ 37″ E143° 26′ 00″

測定根拠：砂浜に打ち上げられた木片

測定高：392cm（9月28日13時10分）

聞き取り事項：なし



図 88-1 津波が遡上した痕跡

地点番号 89 大樹町ホロカヤントウ（晩成温泉から1km南西）

位置：N42° 31′ 29″ E143° 28′ 40″

測定根拠：砂浜に打ち上げられた木片

測定高：442cm（9月28日10時35分）

聞き取り事項：なし



図 89-1 津波が遡上した痕跡（砂浜に打ち上げられた木片などの浮遊物）と測量作業状況。ホロカヤントウ沼には、津波による海水の浸入はなかった。

地点番号 90 大樹町ホロカヤントウ

位置: N42° 31' 30", E143° 28' 41"

測定根拠: 浮遊物

津波高: 369cm (9月28日11時39分)

聞き取り事項: なし



図 90-1 砂浜に分布する浮遊物帯.



図 90-2 主に木片からなる浮遊物帯.

地点番号 91 大樹町晩成温泉

位置: N42° 31' 58" E143° 29' 09"

測定根拠: 砂浜に打ち上げられた木片

測定高: 449cm (9月28日11時00分)

聞き取り事項: なし



図 91-1 津波が遡上した痕跡



図 91-2 砂浜に打ち上げられた木片などの
浮遊物

地点番号 92 大樹町晩成温泉 砂浜

位置 : N42° 32' 01" E143° 29' 11"

測定根拠 : 砂浜に残るゴミや浮遊物の痕跡。

測定高 : 320 cm (9月28日13時22分)

聞き取り事項 : なし



図 92-1 晩成温泉の砂浜の津波遡上痕

地点番号 93 大樹町晩成温泉

位置 : N42° 32' 09" E143° 29' 20"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 320 cm (9月28日17時1分)

聞き取り事項 : なし



図 93-1 砂浜に分布する浮遊物帯.



図 93-1 砂浜に分布する浮遊物帯.

地点番号 94 大樹町生花苗 (晩成温泉から 3.5km 北東)

位置 : N42° 33' 28" E143° 30' 31"

測定根拠 : 砂浜に打ち上げられた木片

測定高 : 428cm (9月28日 11時50分)

聞き取り事項 : なし



図 94-1 津波が遡上した痕跡と測量作業状況

地点番号 95 大樹町生花苗

位置 : N42° 33' 34" E143° 30' 39"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 240 cm (9月30日 14時50分)

聞き取り事項 : なし



図 95-1 砂浜に分布する浮遊物帯.

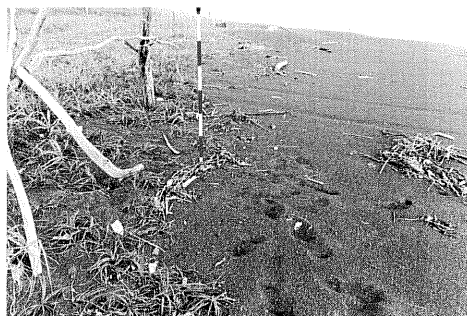


図 95-2 砂浜に分布する浮遊物帯.

地点番号 96 豊頃町湧洞沼, 南側

位置 : N42° 34' 49" E143° 31' 50"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 258 cm (9月28日13時6分)

聞き取り事項 : なし



図 96-1 砂浜に分布する浮遊物帯.



図 96-2 砂浜に分布する浮遊物帯.

地点番号 97 豊頃町湧洞沼 (湧洞浜)

位置 : N42° 35' 07" E143° 32' 09"

測定根拠 : 砂浜に打ち上げられた木片

測定高 : 307cm (9月28日9時5分)

聞き取り事項 : なし



図 97-1 津波が遡上した痕跡



図 97-2 砂浜に打ち上げられた木片などの
浮遊物

地点番号 98 豊頃町湧洞沼，北側

位置：N42° 35' 57" E143° 33' 00"

測定根拠：浮遊物

測定高：330cm (9月28日12時43分)

聞き取り事項：なし



図 98-1 砂浜に分布する浮遊物帯.



図 98-2 砂浜に分布する浮遊物帯.

地点番号 99 豊頃町湧洞沼

位置：砂浜 N42° 36' 00" E143° 33' 05"

測定根拠：砂浜に残るゴミや浮遊物の痕跡。

測定高：330 cm (9月28日12時44分)

聞き取り事項：なし



図 99-1 湧洞浜の砂浜の状況



図 99-2 砂浜のゴミや浮遊物

地点番号 100 豊頃町湧洞沼, 長節側

位置 : N42° 36' 39" E143° 33' 46"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 240cm (9月30日16時16分)

聞き取り事項 : なし



図 100-1 砂浜に分布する浮遊物帯.



図 100-2 砂浜に分布する浮遊物帯.

地点番号 101 豊頃町長節沼

位置 : N42° 39' 17" E143° 36' 45"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 316cm (9月28日14時21分)

聞き取り事項 : なし



図 101-1 砂浜に分布する浮遊物帯.



図 101-2 主に木片からなる浮遊物帯.

地点番号 102 豊頃町長節沼 (長節浜 ; 十勝川河口から 5km)

位置 : N42° 39' 37" E143° 37' 11"

測定根拠 : 砂浜に打ち上げられた木片

測定高 : 352cm (9月30日10時36分)

聞き取り事項 : なし

地点番号 103 豊頃町大津漁港外

位置：N42° 40' 14" E143° 37' 59"

測定根拠：浮遊物

測定高：262cm (9月28日13時54分)

聞き取り事項：なし



図 103-1 砂浜に分布する浮遊物帯.



図 103-2 主に木片からなる浮遊物帯.

地点番号 104-111 豊頃町大津漁港内

位置：N42° 40' 49" E143° 38' 27"

測定根拠：構造物の痕跡及び浮遊物

測定高：224cm, 230cm, 221cm, 220cm (以上, 道路脇構造物), 232cm (プレハブ)

230cm, 232cm (以上, 倉庫), 239cm (浮遊物) (9月28日15時44分)

聞き取り事項：なし

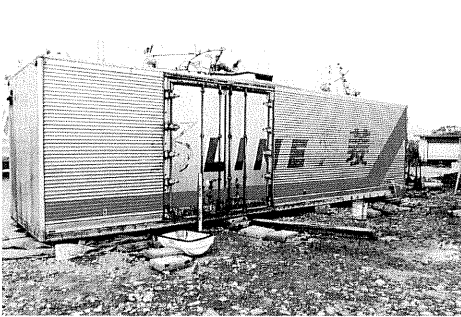


図 104-1 コンテナ外壁の津波痕跡.

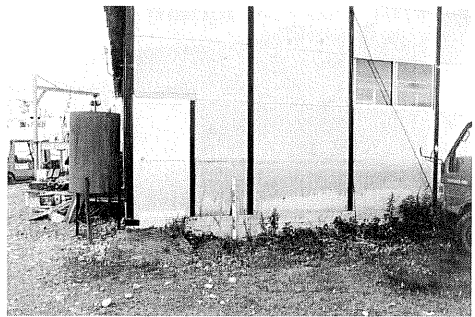


図 108-1 プレハブ外壁の津波痕跡.

地点番号 112 豊頃町大津漁港

位置：N42° 40′ 35″ E143° 38′ 17″

測定根拠：港内に残された浮遊物

測定高：197cm (9月27日14時30分)

聞き取り事項：なし



図 112-1 駐車場脇の斜面に残された潮位上昇の痕跡

地点番号 113 豊頃町大津漁港

位置：N42° 40′ 49″ E143° 38′ 21″

測定根拠：港内の構造物に残された痕跡

測定高：243cm (9月27日15時0分)

聞き取り事項：なし

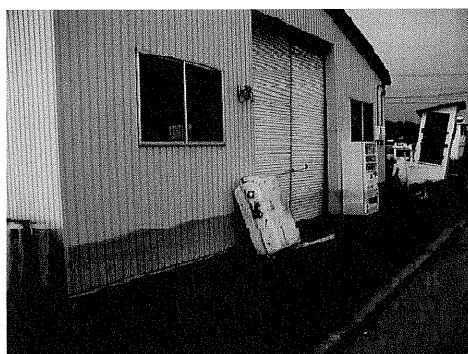


図 146-1 津波による水位上昇の痕跡

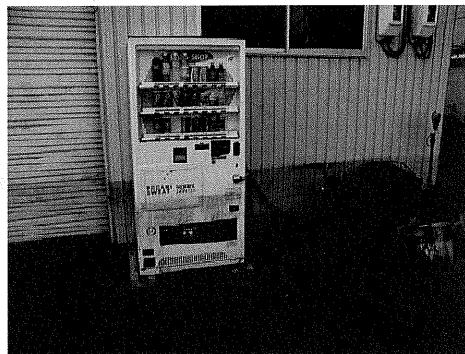


図 146-2 構造物に残された油脂類の跡

地点番号 114-116 豊頃町大津漁港内, 28日 13:14,

位置 : N42° 40' 41" E143° 38' 21"

測定根拠 : 建造物や道路に残された痕跡

測定高 : 253cm, 250cm, 324cm (9月28日 13時 14-30分)

聞き取り事項 : なし

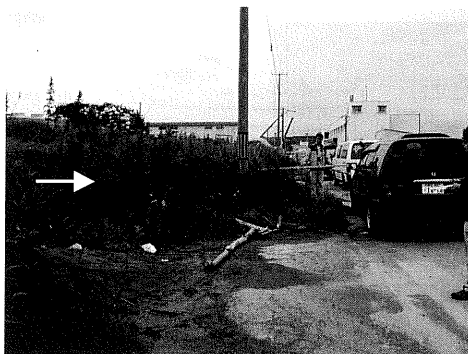


図 114-1 津波の来襲の際に, 流出した重油が停滞したと思われる痕跡. 一面, 黒い重油が残されていた. (地点番号 114).

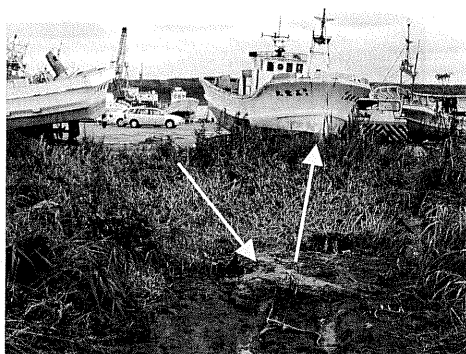


図 115-1 港奥での津波の痕跡. 低い草が倒れており, 海域からの押し波と引き波の双方の向きが読み取れる.

地点番号 117-118 豊頃町大津漁港内

位置 : N42° 40' 48" E143° 38' 27"

測定根拠 : 建造物痕跡

測定高 : 209cm, 205cm (9月28日 13時 50分)

聞き取り事項 : なし



図 117-1 建物壁に残された津波の痕跡. 土砂による茶色ではなく黒ずんだ色をしている. これは重油などが停滞していたことを示唆する. (地点番号 117)

地点番号 119 豊頃町大津漁港内

位置：N42° 40′ 48″ E143° 38′ 27″

測定根拠：建造物痕跡

測定高：278cm（10月1日11時44分）

聞き取り事項：漁師数名へのヒアリング 「造船所の外壁に浸水の跡が残っている。」



図 119-1 外壁に浸水線が残っていた造船所



図 119-2 外壁の浸水線

地点番号 120 豊頃町大津漁港内

位置：N42° 40′ 48″ E143° 38′ 27″

測定根拠：建造物痕跡

測定高：258cm（10月1日11時44分）

聞き取り事項：漁船上架施設作業員へのヒアリング 「漁船上架施設の外壁に泥水に浸った線が付いている。シャッターを閉めていたが、内部に浸水した。」

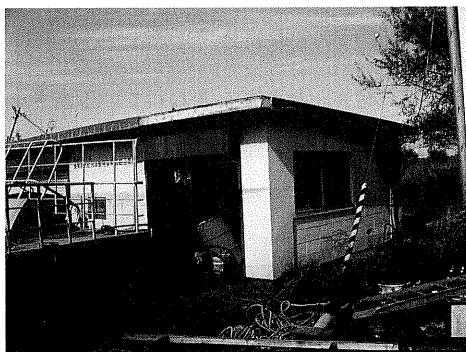


図 120-1 外壁に浸水線が残っていた漁船上架施設

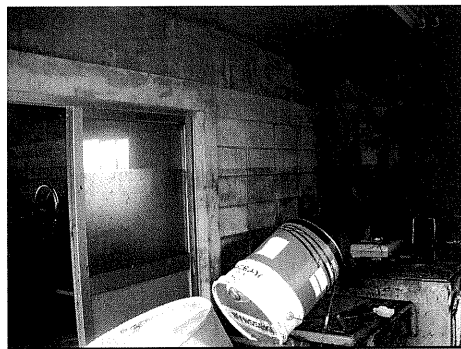


図 120-2 漁船上架施設の内壁の浸水線

地点番号 121-123 豊頃町大津漁港内

位置 : N42° 40' 33" E143° 38' 17"

測定根拠 : その他

測定高 : 260cm, 232cm, 247cm (9月28日13時20分)

聞き取り事項 : なし

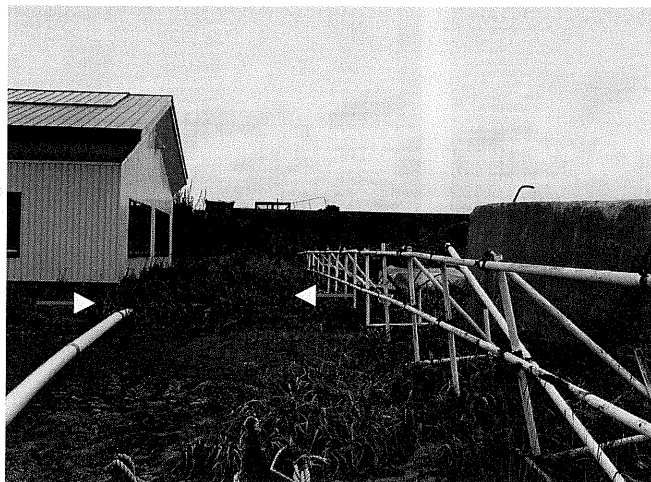


図 121-1 低草に残された津波の痕跡. 海域から陸側へ向かって倒れている. (地点番号 121)

地点番号 124 豊頃町大津漁港内

位置 : N42° 40' 42" E143° 38' 21"

測定根拠 : 海岸痕跡

測定高 : 165cm (10月1日12時20分)

聞き取り事項 : 漁師数名へのヒアリング 「法面の草の色が(枯れて)変わっている高さまで浸水した。」



図 124-1 法面の草



図 124-2 草の色が変わっている高さの測定

地点番号 125-126 豊頃町大津漁港内

位置：N42° 40′ 52″ E143° 38′ 28″

測定根拠：建造物痕跡

測定高：229cm, 254cm (9月28日13時20分)

聞き取り事項：なし



図 125-1 港奥での船置き場。海域から陸側へ向かった低い草が倒れている。(地点番号 125)

地点番号 127-128 豊頃町大津漁港内

位置：N42° 40′ 49″ E143° 38′ 26″

測定根拠：建造物痕跡

測定高：221cm, 251cm (9月28日14時17分)

聞き取り事項：なし



図 127-1 建物壁に残された津波の痕跡。土砂による茶色ではなく黒ずんだ色をしている。これは重油などが停滞していたことを示唆する。(地点番号 127)

地点番号 129 豊頃町大津港内

位置：N42° 40′ 35″ E143° 38′ 13″

測定根拠：岸壁に置いてあるコンクリート製円筒漁礁内側に残っている痕跡。

測定高：275 cm (9月28日10時40分)

聞き取り事項：なし

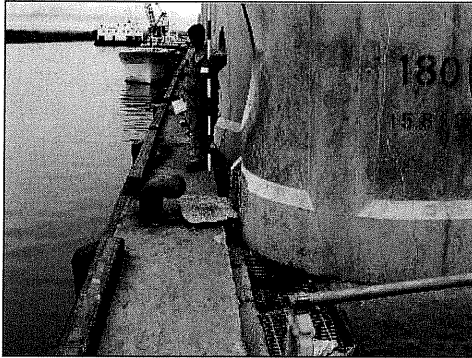


図 129-1 津波痕跡が残る大津港岸壁の
円筒漁礁



図 129-2 円筒漁礁に付着する浸水痕

地点番号 130 豊頃町大津港内

位置：N42° 40′ 50″ E143° 38′ 29″

測定根拠：港に隣接するドックの前に設置しているコンテナの壁面の痕跡。

測定高：290 cm (9月28日11時19分)

聞き取り事項：津波は押し寄せたというより膨らむような感じで海水が盛り上がり、浸水してきたように感じられた（漁協職員による）。豊頃町役場から港湾施設の浸水状態を撮影した写真の提供を受けた。



図 130-1 大津港ドックの津波で台座から外れて傾いた漁船と痕跡が残るコンテナ

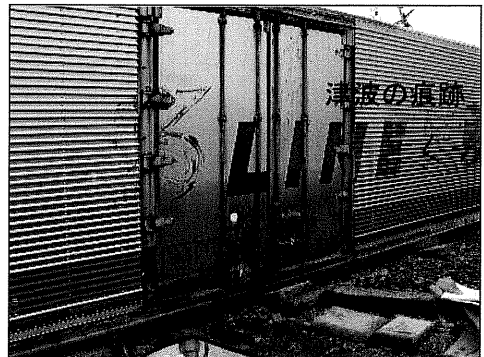


図 130-2 コンテナ壁面の津波の浸水痕

地点番号 131 豊頃町大津港内 港最奥部

位置 : N42° 40' 50" E143° 38' 29"

測定根拠 : 建物についたシミ

測定高 : 350 cm (9月28日10時00分)

聞き取り事項 : なし

地点番号 132 豊頃町大津港内 港最奥部

位置 : N42° 40' 51" E143° 38' 30"

測定根拠 : 建物についたシミ

測定高 : 340 cm (9月28日10時00分)

聞き取り事項 : なし

地点番号 133 豊頃町大津港内 港最奥部

位置 : N42° 40' 52" E143° 38' 29"

測定根拠 : 枝に引っかかった草

測定高 : 365 cm (9月28日10時00分)

聞き取り事項 : なし

地点番号 134 豊頃町大津港内 港最奥部

位置 : N42° 40' 53" E143° 38' 27"

測定根拠 : 草に引っかかったビニル袋

測定高 : 325 cm (9月28日10時00分)

聞き取り事項 : なし

地点番号 135 豊頃町大津港内 港最奥部

位置 : N42° 40' 54" E143° 38' 26"

測定根拠 : 草に引っかかったロープ

測定高 : 295 cm (9月28日10時00分)

聞き取り事項 : なし

地点番号 136 豊頃町大津港内 漁協施設

位置 : N42° 40' 45" E143° 38' 24"

測定根拠 : 陸上機械についたシミ

測定高 : 310 cm (9月28日12時00分)

聞き取り事項 : なし

地点番号 137 豊頃町大津港内 漁協施設

位置 : N42° 40' 44" E143° 38' 25"

測定根拠 : 土手の草の油による変色

測定高 : 300 cm (9月28日12時00分)

聞き取り事項 : なし

地点番号 138 豊頃町大津港内 漁協施設

位置 : N42° 40' 40" E143° 38' 16"

測定根拠 : 建物についたシミ

測定高 : 280 cm (9月28日12時20分)

聞き取り事項 : なし

地点番号 139 豊頃町大津港内 L字状港内における屈曲部

位置 : N42° 40' 37" E143° 38' 14"

測定根拠 : 岸壁上の魚礁ブロックについたシミ

測定高 : 270 cm (9月28日12時30分)

聞き取り事項 : なし

地点番号 140 豊頃町大津漁港内

位置 : N42° 40' 40" E143° 38' 18"

測定根拠 : 漁業組合ビル裏の電話ボックスの痕跡

測定高 : 295cm (9月28日11時55分)

聞き取り事項 : なし



図 140-1 大津漁港 津波痕跡測量地点



写真 140-2 大津漁港岸壁から津波痕跡地点を見る

地点番号 141 豊頃町大津漁港内

位置：N42° 40' 39" E143° 38' 05"

測定根拠：建造物痕跡（浮きドックの海側のフェンス）

測定高：231cm（10月1日11時44分）

聞き取り事項：漁協職員へのヒアリング「係留していた船が1隻引き波で沈没した。出漁していた漁船が海震を感じた。船のスクリューに何か引っ掛かったと思った。午前5時半頃、沖の船から携帯電話へ連絡があった。大津港は地震直後に停電した。工事用の船（幅19m、長さ50m）は径36mmのロープ3本と径28mmのワイヤー2本で係留されていたが、港外へ流された。浮きドックが進水した。渦が発生して、船を港外に出すために1時間かかった。駐車していた80台が浸水により被害を受けた。」



図 141-1 港外へ流された工事用の船



図 141-2 漁協から見た浮きドック

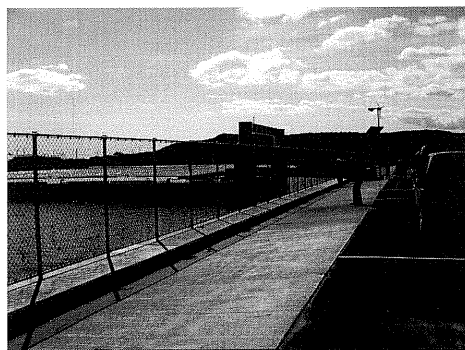


図 141-3 浮きドックの海側のフェンス

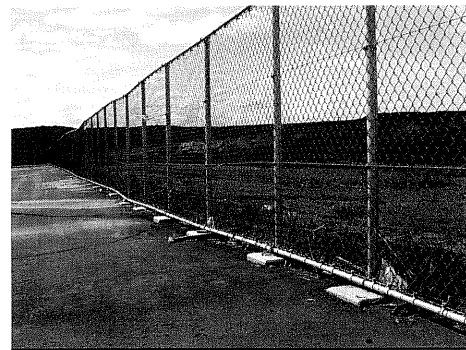


図 142-1 浮きドックの陸側のフェンス

地点番号 142 豊頃町大津漁港内

位置：N42° 40' 39" E143° 38' 05"

測定根拠：建造物痕跡（浮きドックの陸側のフェンス）

測定高：177cm（10月1日11時44分）

聞き取り事項：地点番号 141 に同じ

地点番号 143 豊頃町大津漁港南側

位置：N42° 40' 36" E143° 38' 31"

測定根拠：砂浜に打ち上げられた浮遊物

測定高：227cm (9月28日11時15分)

聞き取り事項：なし



図 143-1 大津漁港南側砂浜における津波痕跡

地点番号 144 豊頃町大津漁港南側

位置：N42° 40' 41" E143° 38' 37"

測定根拠：砂浜に打ち上げられた浮遊物

測定高：255m (9月28日11時30分)

聞き取り事項：なし

地点番号 145 十勝川河口右岸

位置：N42° 41' 26" E143° 39' 34"

測定根拠：砂浜に打ち上げられた浮遊物

測定高：203cm (9月28日12時15分)

聞き取り事項：なし



図 145-1 十勝川河口部



図 145-2 十勝川河口部津波痕跡

地点番号 146 浦幌町十勝太（浦幌十勝川から 2.5km 南西）

位置：N42° 42' 29" E143° 40' 58"

測定根拠：砂浜に打ち上げられた木片

測定高：283cm（9月29日8時50分）

聞き取り事項：なし



図 146-1 津波によって打ち上げられた木片などの浮遊物

地点番号 147 浦幌町浜厚内

位置：N42° 47' 29" E143° 48' 05"（厚内漁港の南にある厚内五区の海岸堤防）

測定根拠：浮遊物。海岸堤防に寄せられたゴミがたまった場所。

測定高：293cm（9月28日10時50分）

聞き取り事項：

- (a) 家の前の 2m ぐらいの高さの海岸堤防は、1952 年の津波の後でできた。私は避難していたが、家族から聞いたところによれば、「堤防をしぶきを超えることはあったが、押し波は消波ブロックを超える程度であって、堤防からあふれ出てくることはなく、波が引いた時には海底の岩がごろごろしているのが見えた」とのこと。集落では、堤防のおかげで被害にあった人はいなかった。
- (b) 波が引いた時は、岩が出た。勢いよく津波が押し寄せたというよりは、潮が満ちたり干いたりを繰り返していたという様子であって、白波が立つような状態ではなかった。港では駐車中の車に波がかぶったと聞いた。（海岸堤防すぐ裏の家の住民。六、七十代女性。）



図 147-1 浜厚内の海岸の様子



図 147-2 消波ブロックの海岸堤防側

地点番号 148 浦幌町厚内漁港

位置：N42° 48' 25" E143° 49' 11"

測定根拠：港内の浮遊物

測定高：102cm (9月28日14時00分)

聞き取り事項：漁港関係者「地震発生時は出漁の準備をしていた。揺れの後海が引いたかは覚えていない」

地点番号 149 浦幌町厚内漁港

位置：N42° 48' 25" E143° 49' 11" (漁業協同組合の駐車場)

測定根拠：目撃証言および浮遊物。駐車場に残された木片(目撃証言により確認)。

測定高：227cm (9月28日11時22分)

聞き取り事項：駐車場に残された木片は、津波で運ばれてきたものを、一部片付けずに残しておいた。(調査時に漁港にいた人。男性。)

地点番号 150 浦幌町厚内漁港

位置：N42° 48' 25" E143° 49' 11"

測定根拠：目撃証言

測定高：182cm (9月30日17時30分)

聞き取り事項：

- (1) 漁協職員へのヒアリング「第1波と第3波が漁港隣の駐車場まで浸水した。岸壁に船が隠れるほど海面が低下した。」
- (2) 漁港職員へのヒアリング「最初に水面が高くなったのは午前6時過ぎだった。」30m位に渡って10cm程度の段差が発生していた。



図 150-1 漁港とその隣の駐車場



図 150-2 岸壁

地点番号 151 浦幌町厚内漁港

位置 : N42° 48' 27" E143° 49' 16"

測定根拠 : 港内道路上の浮遊物

測定高 : 91cm (9月28日 14時10分)

聞き取り事項 : なし



図 151-1 厚内漁港内道路上の津波痕跡

地点番号 152 浦幌町厚内漁港

位置 : N42° 48' 30" E143° 49' 21"

測定根拠 : 砂浜の浮遊物

測定高 : 203cm (9月28日 13時40分)

聞き取り事項 : なし

地点番号 153 音別町キナシベツ (音別川河口から 5km 南西)

位置 : N42° 51' 12" E143° 53' 03"

測定根拠 : 砂浜に打ち上げられた木片

測定高 : 225cm (9月29日 基準点より測定)

聞き取り事項 : なし



図 153-1 津波によって打ち上げられた木片などの浮遊物, 津波は侵食崖まで到達

地点番号 154 音別町東側

位置 : N42° 56' 39" E144° 03' 18"

測定根拠 : その他

測定高 : 111cm (9月28日 16時43分)

聞き取り事項 : なし



図 154-1 海岸での痕跡. ここでは, 明瞭な津波による痕跡を見つけることが難しかった. ほぼ一直線上に並んだ浮遊物を目安にした.

地点番号 155 白糠町パシユクル沼

位置 : N42° 55' 08" E144° 0' 03"

測定根拠 : 砂浜に打ち上げられた木片

測定高 : 242cm (9月29日 基準点より測定)

聞き取り事項 : なし

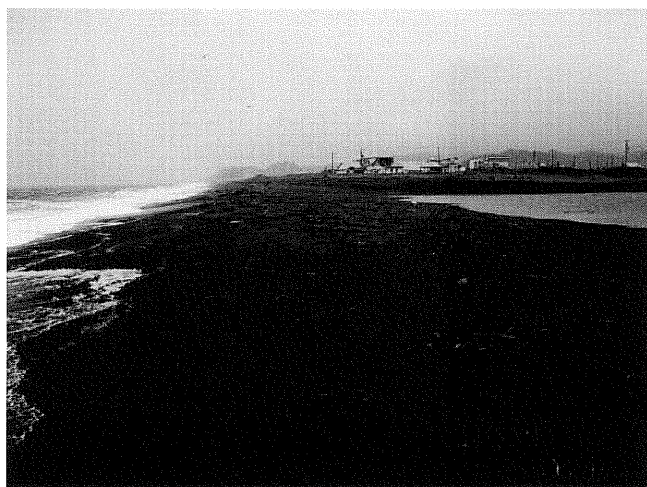


図 155-1 津波が遡上した痕跡, パシユクル沼には津波によって海水が浸入した跡が認められた

地点番号 156 白糠町茶路川（右岸）

位置：N42° 57' 07" E144° 03' 59"

測定根拠：その他

測定高：154cm（9月28日16時10分）

聞き取り事項：なし

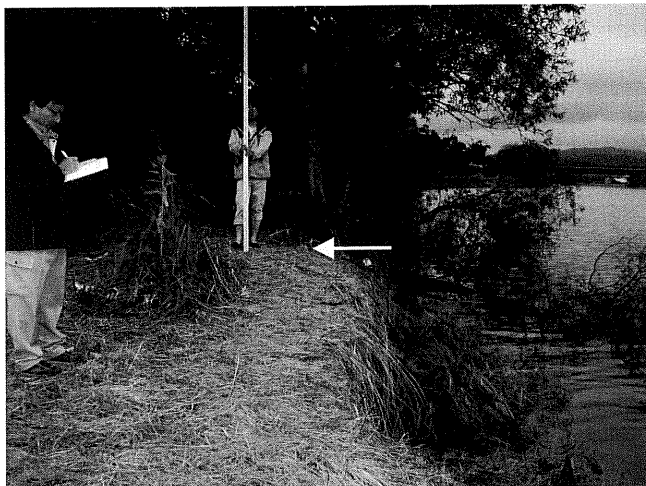


図 156-1 河川右岸に残された津波痕跡。低い草が陸方向に倒れていた。

地点番号 157 白糠町茶路川（右岸）

位置：N42° 57' 07" E144° 03' 59"

測定根拠：浮遊物

測定高：227cm（9月28日17時13分）

聞き取り事項：なし



図 157-1 津波による一方向流れの後。小さな草が完全に倒され、大小の石が移動した後が残されている。流れの痕跡は明瞭。

地点番号 158 白糠町茶路川（右岸）

位置：N42° 56′ 51″ E144° 03′ 59″

測定根拠：その他

測定高：139cm（9月28日16時58分）

聞き取り事項：なし



図 158-1 一直線に残された流木やゴミ。数百メートルに渡り、このような状況が残されたので、水平スケールの大きい波が来襲したと考えられる。

地点番号 159 白糠町白糠漁港

位置：N42° 57′ 11″ E144° 05′ 12″（漁業協同組合の駐車場）

測定根拠：目撃証言。

測定高：150cm（9月28日14時20分）

聞き取り事項：第一波が最も高かった。津波は駐車場のこの位置（示してもらった場所で測定）まで来た。（調査時に漁港にいた人。50代ぐらいの男性。）

地点番号 160 白糠町白糠漁港

位置 : N42° 57' 10" E144° 05' 12"

測定根拠 : 目撃証言

測定高 : 211cm (9月30日15時15分)

聞き取り事項 :

- (1) 漁協職員へのヒアリング「第1波と第2波が浸水し、現在白いトラックが止まっている地点(漁協から道道へ向かう緩い上り坂の途中)まで到達した。」
- (2) 漁師へのヒアリング「午前5時10分頃、中防波堤が全て浸水して見えなくなった。」



図 160-1 漁港



図 160-2 白いトラックが止まっている地点まで浸水

地点番号 161 白糠町恋問 道の駅

位置 : N42° 59' 32" E144° 11' 55"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 162cm (9月28日17時0分)

聞き取り事項 : なし

地点番号 162 釧路市釧路港 (西港)

位置 : N43° 00' 01" E144° 19' 48" (第一埠頭と第二埠頭の間)

測定根拠 : 目撃証言。第一埠頭と第二埠頭の間の上端。

測定高 : 120cm (9月28日16時00分)

聞き取り事項 : 津波警報が発表されたとき聞いたのは05時18分頃で、この第一埠頭と第二埠頭の間に着いたときには、すでに津波が埠頭まであと数cmの高さまで来ていた。白波が立つような状態ではなかった。05時23~24分頃には波は下がっていった。その後、第四埠頭に1時間ほど行っていたが、その間に2回波が押し引いたりした。再び元の場所に戻ると、津波の高さは最初と同じぐらいの高さだった。朝は、それで港を離れた。昼に港に来ると、波は小さくなっていたが、まだ津波は続いていた。第一波とその約1時間後までの波が高く、同程度だった。(津波当時に港で作業中だった建設コンサルタント職員。20代か30代の男性。)

地点番号 163 釧路市釧路港（西港） 第2埠頭先端

位置：N42° 59' 46" E144° 19' 54"

測定根拠：目撃証言

測定高：125cm（9月28日16時55分）

聞き取り事項：なし

地点番号 164 釧路市釧路港（東港）

位置：N42° 59' 04" E144° 22' 08"

測定根拠：目撃証言

測定高：146cm（9月30日10時7分）

聞き取り事項：

- (1)倉庫職員へのヒアリング 「岸壁の草が倒れていた。津波だと思う。」
- (2)倉庫職員へのヒアリング 「昆布や水が岸壁に上がっていた。」
- (3)倉庫職員へのヒアリング 「現在、水が溜まっているところ（岸壁と倉庫の中間位）まで津波が来た。西港の大きなクレーンが脱線した。」
- (4)倉庫職員へのヒアリング 「北埠頭では腰まで浸水した。」

地点番号 165 釧路市釧路港（東港）

位置：N42° 58' 57" E144° 22' 14"

測定根拠：目撃証言

測定高：138cm（9月30日10時20分）

聞き取り事項：倉庫職員へのヒアリング 「午前5時頃に第一波が倉庫のすぐそばまで来た。14:30に来た波はもっと大きく、8番倉庫の入口まで到達した。」

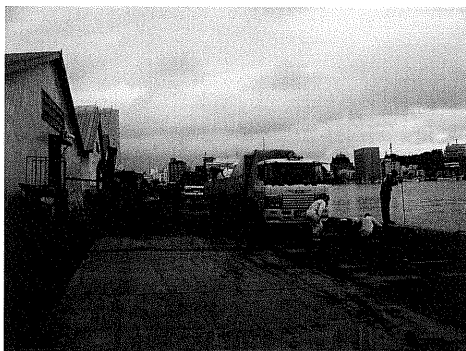


図 165-1 倉庫と岸壁



図 165-2 浸水した倉庫入り口

地点番号 166 釧路市釧路港（東港） 東港副港(-2.5m 岸壁)

位置：N42° 59' 38" E144° 21' 25"

測定根拠：冷蔵庫に付いたシミ

測定高：85cm（9月28日15時45分）

聞き取り事項：なし

地点番号 167 釧路市釧路港（東港） 東港副港(-2.5m 岸壁)

位置：N42° 59′ 38″ E144° 21′ 25″

測定根拠：山積みされたドラム缶についたシミ

測定高：90cm (9月28日15時45分)

聞き取り事項：なし

地点番号 168 釧路市釧路港（東港） 東港副港(-5m 岸壁)

位置：N42° 59′ 35″ E144° 21′ 50″

測定根拠：建物に付いたシミ

測定高：100cm (9月28日16時5分)

聞き取り事項：なし

地点番号 169 釧路市千代の浦漁港

位置：N42° 58′ 00″ E144° 23′ 35″

測定根拠：目撃証言

測定高：116cm (9月30日12時55分)

聞き取り事項：住民へのヒアリング 「斜路と船上げ場の境まで浸水した。潮の引きは、大潮干潮時よりも水平方向で2m沖に引いた。ウニをとった。潮が引いている時間が長く感じられた。恐らく10分以上。」

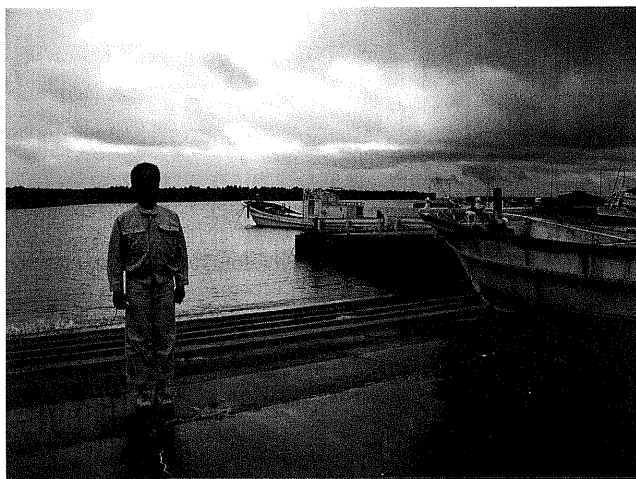


図169-1 斜路と船上げ場の境まで浸水

地点番号 170 釧路川

位置：N42° 58' 54" E144° 22' 41"

測定根拠：目撃証言

測定高：135cm (9月30日8時30分)

聞き取り事項：※釧路川の支流の阿雪裡川（あせつづりかわ）の阿雪裡橋付近

(1) 住民へのヒアリング 「低水敷まで津波が来襲。」

(2) 住民へのヒアリング「会社に出社した午前8時半には既に丸太があった。始めは十数本だったが、だんだん増えてきて40本になった。」

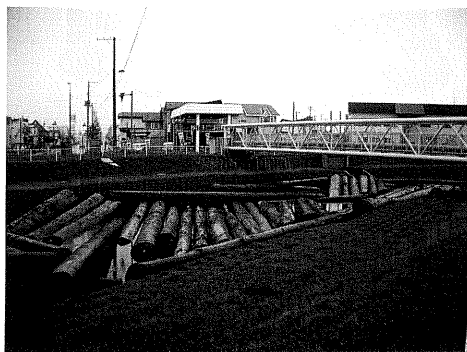


図 170-1 阿雪裡川の流木



図 170-2 釧路町水管橋

地点番号 171 釧路町昆布森

位置：N42° 57' 03" E144° 31' 49" (漁港の埠頭)

測定根拠：目撃証言。目撃者が示した埠頭の排水溝付近。

測定高：122cm (9月30日10時10分)

聞き取り事項：一番潮が上がったのは6時過ぎだった。漁協の建物にまでは達しなかった。埠頭の排水溝までは来たが、これは、普段の台風の高潮以下だ。引いた時は、灯台付近で磯が見えたぐらいで、押した時の二倍はあったのでは。港の中での潮の流れはよく分からなかったが、11時過ぎまでは続いていた。地震の揺れは、北海道東方沖のときの方が強かった。(昆布森漁業協同組合職員。50代ぐらいの男性。)

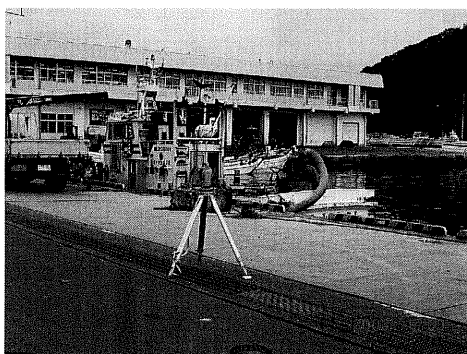


図 171-1 昆布森漁港の津波遡上高測定点

地点番号 172 釧路町昆布森

位置：N42° 57′ 05″ E144° 31′ 50″

測定根拠：目撃証言

測定高：42cm (9月29日17時20分)

聞き取り事項：

(1)漁協職員へのヒアリング 「岸壁は越えたが、漁協建物の際までは来ていない。津波を通り抜けさせるため、漁協の1階のシャッターを空けたが、津波は到達しなかった。2m位水面が下がった。大きな押し引きは3回あった。引きの時に渦が発生していた。周期は20分程度。午前4時半頃には多くの漁船は出港していた。残りの漁船も来襲前に沖に避難した。漁船が帰ってきたのは午前11時過ぎに警報が注意報に変わった後。これまでの津波でも被害はなかった。台風の方が被害が大きい。漁港の外壁が崩れた。」

(2)海岸付近の住民へのヒアリング 「シャンデリアが落ちた。」

地点番号173 釧路町伏古

位置：N42° 56′ 58″ E144° 32′ 25″ (昆布森漁港の外側の集落で、船を置いている砂浜)

測定根拠：目撃証言および浮遊物。白く変色した海藻の列。

測定高：150cm (9月30日09時42分)

聞き取り事項：52年の十勝沖地震のときは、地震から津波まで時間があった。今回は、地震が終わってすぐに津波が沖からうねりながらやってくるのが見えた。ラジオで津波警報を放送するのよりも早かった。1波目は10分もせずに来た。津波が来たのは早かったが、高いのは2波目からだ。番屋から下りて船の近くで作業をしていたが、押し波はそれほどでもなく、留めていた船までは来なかった。潮が引くのは、ひどかった。波消しブロックの手前は、少し水が残った程度だった。ブロックの辺りで水深は2m程度だろうと思う。(昆布漁の漁師。60代ぐらいの男性。)



図 173-1 伏古の津波遡上高測定点

地点番号 174 釧路町浦雲泊

位置：N42° 57' 04" E144° 37' 02" (船を置いている砂浜)

測定根拠：目撃証言および浮遊物。白く変色した海藻の列。

測定高：155cm (9月30日10時59分)

聞き取り事項：船の作業のために海岸に下りていったのは、地震から30分後ぐらいだった。すでに潮は引き始めていて、そのあと潮が押したり引いたりした。6時頃の津波が一番上がった。引き潮は強くて、波消しブロックのところまで海底が見えるところまで潮が引いた。そのあとの押し波を心配したが、それほどでもなかった。砂浜に海藻が打ち上げられているが、白い方が津波によるもので、乾燥していないのはその後の満潮の時のもの。(昆布漁を営む漁師。60代ぐらいの男性。)



図 174-1 白色化した昆布が津波による浮遊物

図 174-2 浦雲泊の津波遡上高測定点

地点番号 175 釧路町知方学

位置：N42° 56' 01" E144° 44' 42" (船揚場)

測定根拠：目撃証言。目撃者が示した場所。

測定高：103cm (9月29日17時15分)

聞き取り事項：目撃者に海岸で津波が来た場所を示してもらった。(付近の住民。60代ぐらいの男性。)



図 175-1 知方学の津波遡上高測定点

地点番号 176 釧路町仙鳳趾

位置：N42° 58′ 33″ E144° 43′ 21″（船揚場）

測定根拠：目撃証言。コンクリート護岸の目撃者が示した場所。

測定高：86cm（9月29日16時40分）

聞き取り事項：4波あり、そのうち1波目が一番高かった。一番高い時でも、波消しブロックの頭は海面より上に見えていた。（付近に住む住民。50代か60代の女性。）



図 176-1 仙鳳趾の津波遡上高測定点

地点番号 177 厚岸町門静

位置：N43° 03′ 15″ E144° 46′ 54″（船揚場）

測定根拠：目撃証言。目撃者が示した場所。

測定高：118cm（9月29日16時05分）

聞き取り事項：最初の押し波が最大で、押し波は第2波が第1波の半分ぐらいだった。下げ潮は強かった。海の底が波消しブロックの辺りまで見えて、トコブシが見えた。返し波が強くなるのではと心配し、拾いにはいかなかったが、返し波はさほどではなかった。（昆布漁の漁師。40代ぐらいの男性。）



図 177-1 門静の津波遡上高測定点

地点番号 178 厚岸町厚岸港

位置：N43° 02′ 33″ E144° 50′ 48″

測定根拠：目撃証言

測定高：46cm（9月29日16時06分）

聞き取り事項：

- (1) 漁師，作業場へのヒアリング 「岸壁は越えていない。」
- (2) 漁協職員へのヒアリング 「まず始めに水位が1m程度低下した。その際，厚岸大橋の西にあるアサリ造成所（水面下1m程度）が目視できた。津波の最大水位は岸壁下5cmまで上昇した。時刻は午前7時頃。次に水位が大きく上昇したのは午前8時30分ごろ。この際は岸壁下30cm程度までしか水位は上昇しなかった。津波によってカキのイカダが流出した。津波の周期は10分程度だったと思う。漁船の沖出しは津波警報後10分程度で完了した。」

地点番号 179 厚岸町筑紫恋

位置：N43° 00′ 54″ E144° 50′ 47″

測定根拠：砂浜のゴミ。わずかながら漂着物も見られ砂の色が変わって見える。目撃証言でも確認。

測定高：228 cm（10月11日09時22分）

聞き取り事項：

- (1) 消波ブロックの根元が見えるくらいまで潮が引いた。その後の押しが一番大きいと思われる06時30分前後（護岸堤付近に住む住人による）。
- (2) 津波は一気に来たのではなく、じわじわとした感じで来た。一番大きな津波は05時30分位だったと思う。消波ブロックは見えていた。護岸堤の3m手前まで津波がやってきた。昭和27年（1952年）十勝沖地震の津波では、電柱のところまで津波が上がってきたが、今回は大波ではなかった（護岸堤付近に住む住人による）。



図 179-1 筑紫恋の砂浜の状況



図 179-2 砂浜のゴミ

地点番号 180 厚岸町床潭

位置 : N42° 59' 44" E144° 52' 07"

測定根拠 : 目撃証言。津波が越えた西防波堤の上端の高さ。

測定高 : 220 cm (10月6日15時30分)

聞き取り事項 :

- (1) 06時40分頃、津波の押しでアンカー綱が伸びて、船が岸壁に上がり、潮が引いた時に船が引っかかって沈没した。津波の高さは通常の潮位から2m位で、岸壁においてあった網を入れる木製の箱(約2.5m×約2.5m)が流されたので岸壁上50cmくらい(海岸に隣接する地区の住民による)。
- (2) 津波は何回も押し寄せたが、一番大きかったのは2番目、06時30分頃であった(海岸に隣接する地区の住民による)。
- (3) 一番大きな津波は3波目くらい(海岸に隣接する地区の住民による)。



図 180-1 津波高を測定した床潭の西防波堤

地点番号 181 厚岸町床潭

位置：N42° 59' 35" E144° 52' 18"

測定根拠：目撃証言。トラックの荷台の底位（地面から約70cm）まで潮位が上がった。

測定高：184 cm（10月11日12時10分）

聞き取り事項：

- (1) 港外へ船を避難させるために乗り付けたトラック（1.5トン）の荷台の底位まで潮位が上がった（海岸に隣接する地区の住民による）。
- (2) 1波目は来るのが早かった。地震が起きて40分くらいたってから2波目か3波目が一番大きかった。津波が渦を巻いて港に入り、一番大きな津波により船が防波堤に乗り上がり、引き波により沈没した（海岸に隣接する地区の住民による）。

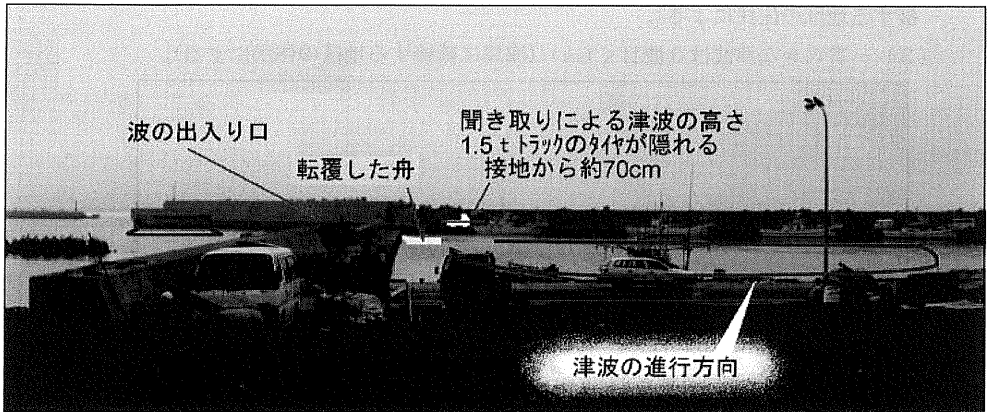


図 181-1 津波の高さを測定したトラックの位置と、床潭漁港内での目撃証言による津波の進行方向（転覆した船は引き上げ済）

地点番号 182 厚岸町床潭

位置：N42° 59′ 35″ E144° 52′ 27″（船揚場の護岸）

測定根拠：目撃証言。目撃者(c)が示したオレンジ色の浮き。

測定高：235cm（9月29日15時15分）

聞き取り事項：

(a) 床潭では、エプロンより上に波が上がって、引き波の時に昆布漁船2隻が転覆したと報告を受けている。厚岸町では、1952年の十勝沖地震で一番被害が大きかったのは床潭地区だった。

今度の津波は、厚岸町では、全体的に52年よりも小さかったのではないか。（厚岸町役場職員。）

(b) 避難していた。漁港の岸壁いっぱいまで、あるいは少し岸にあふれる程度まで津波が来ていた。（付近に住む住民。）

(c) 漁港の外の津波を見ていた。2回目の押し波が一番高かった。下げ潮がきつい津波だという印象を持った。オレンジ色の浮きのところまで津波が来た。（付近に住む住民。40代か50代の女性。）

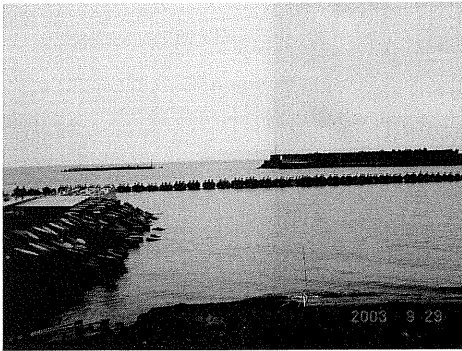


図 182-1 床潭の調査地点の概観

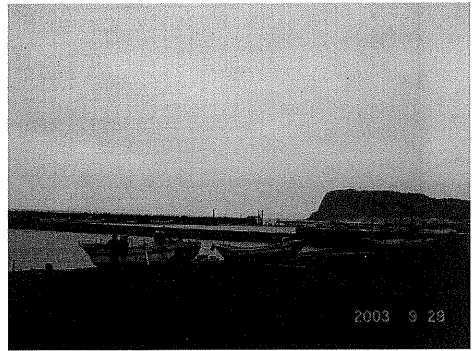


図 182-2 床潭の津波遡上高測定点

地点番号 183 厚岸町幌万別

位置：N42° 59′ 14″ E144° 53′ 16″

測定根拠：砂浜にわずかに認められる漂着物。

測定高：170 cm（10月11日14時38分）

聞き取り事項：消波ブロックの根元（捨石）が見えた。潮の込んでくるのが比較的早いと感じた（海岸に隣接する地区の住民による）。

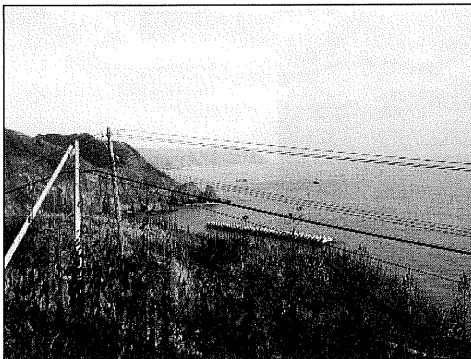


図 183-1 幌万別の浜の消波ブロック

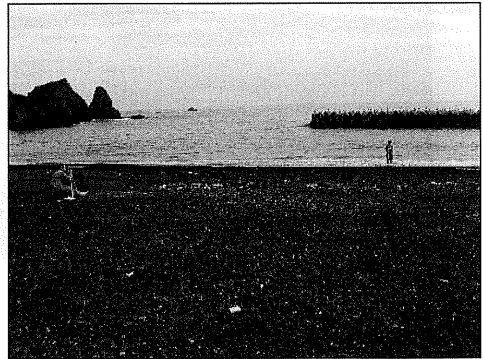


図 183-2 砂浜の状況と津波の遡上高測定

地点番号 184 厚岸町末広

位置： N42° 59' 20" E144° 53' 20" (船揚場のコンクリート部上端付近)

測定根拠：目撃証言。船揚場で目撃者が示した場所。

測定高：374cm (9月29日12時50分)

聞き取り事項：

(a) 海岸の斜面の上にある家から見ていると、大しけの時に波が届くところと同程度ぐらいまで津波が押し来ていた。一番高いときには、沖の波消しブロックが隠れるほどだった。コンクリート護岸上の砂利場に敷いたシート(図 184-1 中央)1枚分まで波が上がった。(付近住民。40代か50代の女性。)

(b) 津波が高い時には、右手前方沖に見える小さな岩(図 184-2 中央の岩)が水没したので、2mや3mなんてものではないはず。(付近住民。50代ぐらいの男性。)



図 184-1 末広の津波遡上高測定点



図 184-2 調査地点沖の波消しブロック

地点番号 185 厚岸町末広

位置：N42° 59′ 20″ E144° 53′ 53″

測定根拠：目撃証言。船揚場（砂浜）の上端まで津波が遡上した。

測定高：376 cm（10月10日14時53分）

聞き取り事項：

- (1) 3波か4波の津波が一番大きく、携帯電話のカメラで撮った写真の時間は06時31分になっている。渦潮が起きて引いていった。津波が来てから避難の放送があった（海岸に隣接する地区の住民による）。
- (2) 川の護岸（橋）の上縁まで波が来た（海岸に隣接する地区の住民による）。



図 185-1 津波の測定地点



図 185-2 目撃証言による津波の遡上地点

地点番号 186 厚岸町末広

位置：N42° 59′ 22″ E144° 54′ 04″

測定根拠：目撃証言による。船揚場（砂浜）のブルーシートの上端まで達した。

測定高：392 cm（10月10日14時30分）

聞き取り事項：

- (1) 2回目引いた後の3回目の波が大きかった。06時30分頃と思われる（海岸に隣接する地区の住民による）。
- (2) 引きで消波ブロックから手前の海底が現れた。押しで消波ブロックの頭が隠れた。06時30分頃、6回目（押し引きで2回とカウントしていると思われる）の波が大きかった（海岸に隣接する地区の住民による）。



図 186-1 末広の船揚場の津波遡上地点



図 186-2 津波の遡上高測定

地点番号 187 厚岸町末広

位置：N42° 59′ 20″ E144° 54′ 24″

測定根拠：目撃証言。船揚場（砂浜）を津波が遡上した。

測定高：288 cm（10月10日13時45分）

聞き取り事項：

- (1) 津波来襲で船を上げ始めたが、第1波で停電のため電動から車に変え引き上げた。消波ブロックから岸までの距離は80m位で長さ70m、消波ブロック間は30m。2波目の下げ潮が大きい（海岸に隣接する地区の住民による）。
- (2) 2回目の引きが大きく、3波目が大きかった。夫婦岩の2分の1まで水没、引き潮時には夫婦岩まで歩いて行った人がある。昭和27年（1952年）十勝沖地震の津波や昭和35年（1960年）チリ津地震波に比べると今回は小さい。最初は避難したが、その後戻って家から見ていた（海岸に隣接する地区の住民による）。
- (3) 夫婦岩（高さは約9m、鳥居の高さ約2.35m、中央の岩約2.5m）での津波の状況は、07時30分頃の津波が大きい（海岸に隣接する地区の住民による）。

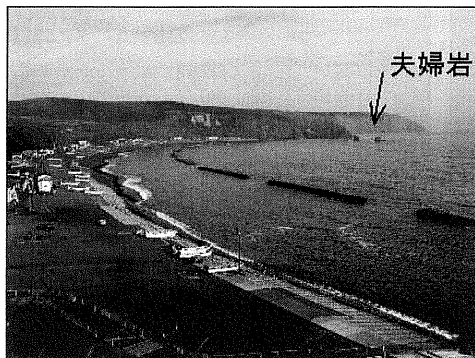


図 187-1 末広の海岸の状況

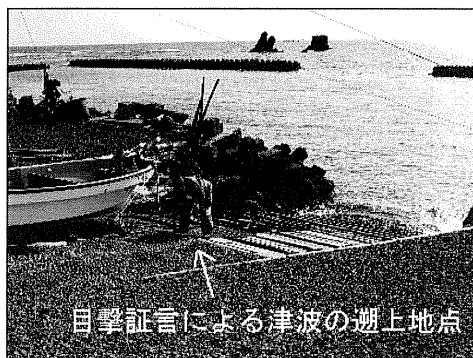


図 187-2 船揚場の測定位置

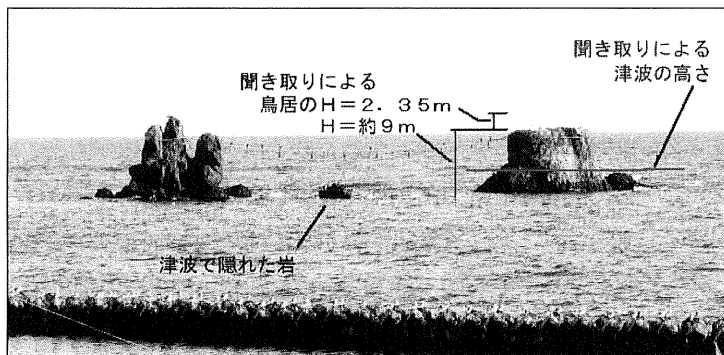


図 187-3 目撃証言による夫婦岩での津波の高さ

地点番号 188 厚岸町末広

位置：N42° 59′ 20″ E144° 54′ 17″

測定根拠：目撃証言。消波ブロック（海岸から約70m）が津波に隠れる写真映像による。

測定高：233 cm（10月26日09時21分、業者測量）

聞き取り事項：なし

地点番号 189 厚岸町末広

位置：N42° 59′ 19″ E144° 54′ 19″

測定根拠：目撃証言。消波ブロック（海岸から約74m）が津波に隠れる写真映像による。

測定高：228 cm（10月26日08時53分、業者測量）

聞き取り事項：なし

地点番号 190 厚岸町末広

位置：N42° 59′ 17″ E144° 54′ 23″

測定根拠：目撃証言。消波ブロック（海岸から約64m）が津波に隠れる写真映像による。

測定高：194 cm（10月26日09時01分、写真から業者測量）

聞き取り事項：最初は潮が下がっていき、その後いきなり1波目が来て潮が下がっていった。2波目が来て後に大きく潮が引き、3波目が一番大きかった。そのときの時刻は06時33分となっている。この海岸と海の状態は、割と急な傾斜で海岸から海につながり、すぐに深くなる。親子岩のあたりも深い。3波目の前に潮が引いたときは消波ブロックの底も見えているのでかなり引いたと思う。一番大きな津波が来たときは消波ブロックも見えなくなった。地震後停電になった。津波が来ると直感し、船を車で引き上げた。サイレンが鳴り防災無線は津波がくることを放送した。この地区での船は全部浜の上に引き上げ、津波による被害はなかった。自分は生後間もないため知らないが、年寄りの話を聞くと昭和27年（1952年）十勝沖地震の津波より小さかった（海岸に隣接する地区の住民による）。



図 190-1 津波によって消波ブロックが隠れた様子（末広 谷内氏提供）

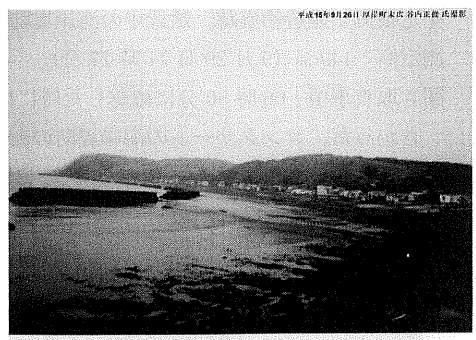
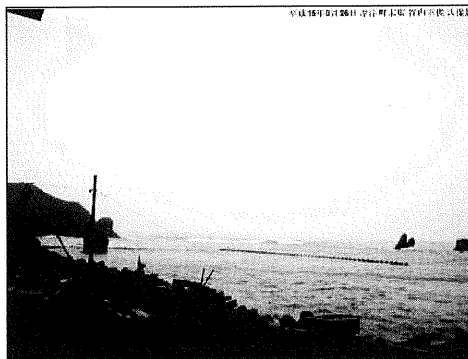


図 190-2 波が引いて消波ブロックが現れたとき（末広 谷内氏提供）



地点番号 191 浜中町藻散布

位置：N43° 01′ 17″ E145° 01′ 16″（散布漁港藻散布分区の岸壁）

測定根拠：目撃証言。岸壁の上端が一番低い場所。

測定高：100cm（9月29日12時10分）

聞き取り事項：

- (a) 岸壁の上端ギリギリまで津波が来た。津波が高かったのは午前中。今回の津波では、押し波よりも下げ潮の方が強かった。（漁業協同組合職員。男性。）
- (b) 港に係留していて転覆した漁船があった。（漁港で作業中の人。男性。）

地点番号 192 浜中町火散布

位置：N43° 01′ 49″ E145° 01′ 39″（散布漁港の岸壁）

測定根拠：目撃証言。岸壁の上端岸が一番低い場所。

測定高：120cm（9月29日11時50分）

聞き取り事項：岸壁の上端のごく近くまで波が上がったが、あふれなかった。海に通じる狭い水路を通して津波が押し寄せてきて、岸ギリギリまで来た。津波が高かったのは午前中。（漁港で荷揚げ作業中の人。男性。）

地点番号 193 浜中町琵琶瀬

位置：N43° 03′ 33″ E145° 05′ 16″（建造中の海岸堤防）

測定根拠：建造物痕跡。建造中の海岸堤防の海側側面にあるマンホール付近に残された泥の線。

測定高：149cm（9月29日11時27分）

聞き取り事項：06時50分に確認した時には波が引きつつあって、その後に来た波は、それより小さかった。コンクリートの海岸堤防の海側側面にあるマンホールのあたりまで津波が来ていた。（堤防の土木作業員。20代か30代の男性。）

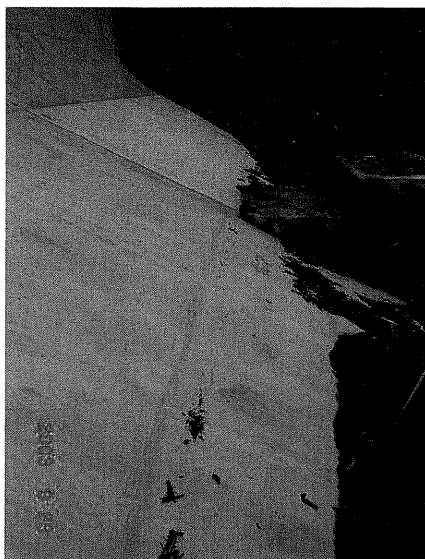


図 193-1 海岸堤防の海側側面に残された泥の線

地点番号 194 浜中町新川河口

位置：N43° 04′ 48″ E145° 06′ 19″

測定根拠：目撃証言

測定高：59cm (9月29日13時5分)

聞き取り事項：

(1)住民へのヒアリング「家が壊れるんじゃないかと思って外に出たら、水門のきしむ音がすごかった。津波は堤防を越えなかった。津波来襲前に水門は閉じられた。町役場で遠隔操作する。水門付近の海側では、水門で止められた津波が川から溢れた。」

(2)浜中町職員へのヒアリング「霧多布の岸壁の高さは5.3m(1960年チリ津波の霧多布での高さ)であり、海岸沿いに17.5km延びている。津波警報発令後すぐに家族を車で避難させ、自分は役場に向かい警戒にあたった。なお、浜中町では5つの水門を管理しているが、全ての水門を閉めた。役場では新川水門からみた海岸部をリモートによりモニタで見られるようになっており、それを見ていると以下の事が観察された。

1. 次第に津波が押し寄せ、新川水門に通じる川(海岸側)の水位が上がり溢れ始めた。
2. その溢れた水が新川水門に当たり、岸壁沿いに流れこんぶ干場に進入。(岸壁沿いに約20m四方のこんぶ干場が汀線方向に2つ並んでいる)
3. 漁船1隻が、水門に通じる川から遠い方の干場に押し流され、ちょうど干場の中央付近に着底。
4. 水門に通じる川のすぐそばに簡易トイレ・プレハブ小屋2つ・工事中を示す看板が建っていたが、溢れてきた波により簡易トイレは倒れ、残りの2つのプレハブ及び看板は2.で説明した流れに乗り、10m程流されて着底。
5. 津波は見た感じ4~5波目が最大だった。」

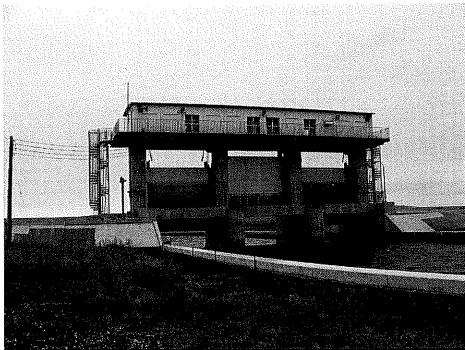


図 194-1 新川水門



図 194-2 新川水門の海側

地点番号 195 浜中町新川河口

位置：N43° 04′ 48″ E145° 06′ 19″

測定根拠：目撃証言

測定高：38cm (9月29日13時5分)

聞き取り事項：地点番号 195 に同じ

地点番号 196 浜中町新川

位置：N43° 04′ 48″ E145° 06′ 19″ (砂浜)

測定根拠：目撃証言および浮遊物。草にからまって残された昆布の切れ端などの列。

測定高：180cm (9月29日10時10分)

聞き取り事項：

(周辺での状況について)

(a) 地震のゆれは、北海道東方沖地震のときよりも短いという印象を持った。(浜中町役場職員。)

(b) 霧多布の港では、南岸であふれそうになった。北岸では漁協前で西側から灯台の方向に向かって波が入ってきた。波は、霧多布大橋を南から北に向かう方向に進んできたのだと思う。(浜中漁業協同組合職員。)

(c) 昆布が草に絡まっているのは、津波によるもの。チリ地震のときはさらに陸側まで津波が来た。(浜を散歩中の付近住民。50代ぐらいの男性。)



図 196-1 草に絡まって残された浮遊物

地点番号 197 浜中町榊町

位置：N43° 07′ 21″ E145° 06′ 55″

測定根拠：目撃証言

測定高：114cm (9月29日11時53分)

聞き取り事項：住民へのヒアリング 「海岸に行けば津波が来たところは草が倒れているので分かる。」



図 197-1 津波で倒された草

地点番号 198 浜中町榊町

位置：N43° 07' 27" E145° 06' 59"

測定根拠：目撃証言

測定高：182cm (9月29日11時40分)

聞き取り事項：住民へのヒアリング 「津波は、斜路を越えて、船上げ場まで到達した。しかし、その背後のこんぶ干場までは到達していない。午前9時頃に最大の津波が来た。目測で岸壁から1.5m位上がった。」

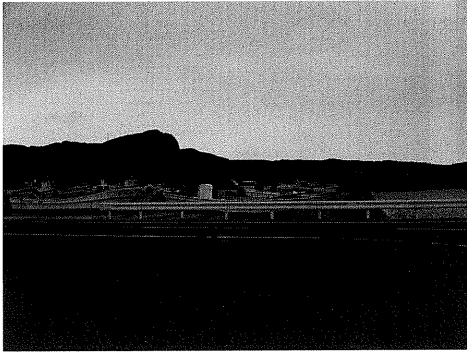


図 198-1 浸水した斜路

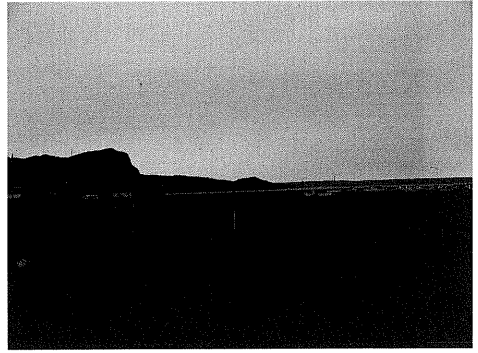


図 198-2 斜路背後のこんぶ干場

地点番号 199 浜中町湯沸

位置：N43° 04' 29" E145° 09' 02" (船を置いている砂浜)

測定根拠：目撃証言。目撃者が示した場所。

測定高：120cm (9月29日09時25分)

聞き取り事項：目撃者に海岸で津波が来た場所を示してもらった。(昆布漁を営む漁師。40代か50代の男性。)

地点番号 200 根室市落石漁港

位置：岸壁 N43° 10' 40" E145° 30' 29"

測定根拠：目撃証言。漁協職員による津波遡上の位置を示してもらった。

測定高：90 cm (9月29日16時58分)

聞き取り事項：第1波は05時20分で、06時17分の第3波が最大であった(漁協職員による)。

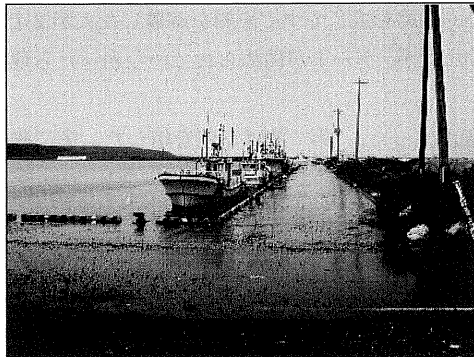


図 200-1 落石漁港の調査地点

地点番号 201 根室市長節

位置：N43° 15′ 23″ E145° 33′ 25″

測定根拠：目撃証言

測定高：182cm (9月28日11時37分)

聞き取り事項：住民へのヒアリング「消波ブロックまでは津波がきたが、家は浸水しなかった。」



図 201-1 越波した消波ブロック



図 201-2 住宅までは浸水していない

地点番号 202 根室市花咲港

位置：N43° 17′ 08″ E145° 34′ 49″

測定根拠：目撃証言

測定高：141cm (9月28日12時44分)

聞き取り事項：

- (1) 漁師へのヒアリング「港の奥の角に小舟が上がった。岸壁は越えた。」
- (2) 地元の人（漁船の修理をしていた）へのヒアリング「根室漁業共同組合花咲水産物地方卸売市場の建物のシャッターの足下まで浸水」
- (3) 漁師へのヒアリング「同建物付近に停っていたトラックのタイヤの半分くらいまで浸水」
- (4) 漁協職員へのヒアリング「工事中の防波堤の岸壁まで水位上昇。その防波堤に面した港内でも、岸壁まで水位上昇。取水用パイプの結合部がずれ、取水できず。漁協付近の地盤と岸壁に約2cmの段差発生（海側が高い）。岸壁の別の場所でも段差発生（海側が高い）。漁協の建物の壁が少し落ちた。」
- (5) 漁師へのヒアリング「午前7時前頃、湾口で反時計回りの渦が発生。風が強かった。小さい波がたくさん発生していた。潮位差が大きかった。地震を感じてすぐ漁船を避難した人が2名。ゲートがすぐ閉められたので、津波は港から出なかったが、ゲートが閉められていなかったら危なかっただろう。」
- (6) 漁協職員へのヒアリング「周期は10分間程度だった。第一波は岸壁を越した、第二波は越していない。」
- (7) 海上保安庁職員へのヒアリング「周期は10分間程度。警報を出す前に船を避難させた人が多い。保安部の船も港外に出ているが、すごい潮流だった。花咲港で液状化は確認できていない。分室付近のゲートまで浸水した。」
- (8) 浦河からきている漁師へのヒアリング「沖合30kmでさんま漁をしているとき、海震を感じた。」



図202-1 小舟が上がった港の奥の角

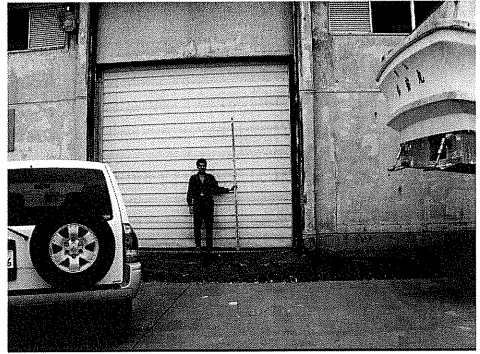


図202-2 シャッターの足下まで浸水

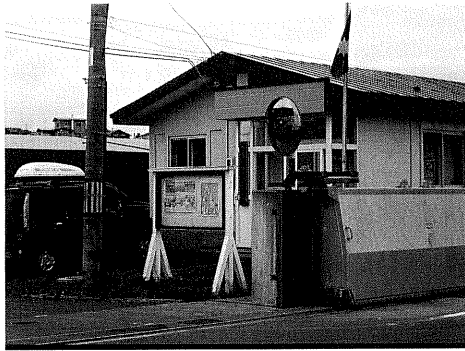


図 202-3 浸水したゲート

東北地方

地点番号 203 尻労漁港の南

位置：N41° 21′ 54″ E141° 26′ 43″

測定根拠：砂浜の浮遊物

測定高：259cm (9月29日13時23分)

聞き取り事項：なし



図 203-1 砂浜に打ち上げられた浮遊物

地点番号 204 古野漁港の西

位置：N41° 03′ 07″ E141° 19′ 47″

測定根拠：砂浜の浮遊物

測定高：145cm (9月29日14時21分)

聞き取り事項：なし



図 204-1 砂浜に打ち上げられた浮遊物 (津軽海峡沿い)

地点番号 205 泊の南

位置：N41° 03′ 07″ E141° 23′ 20″

測定根拠：砂浜の浮遊物

測定高：150cm (9月29日12時04分)

聞き取り事項：なし



図 205-1 砂浜に打ち上げられた浮遊物

地点番号 206 田老漁港 (左岸防波堤港内側の付け根)

位置：N39° 43′ 59″ E141° 58′ 41″

測定根拠：港内斜路の浮遊物と目撃証言

測定高：49cm (9月29日13時59分)

聞き取り事項：津波は60cmくらい上がった。

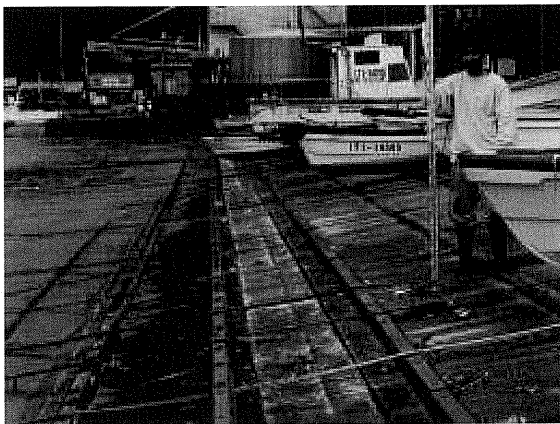


図 206-1 港内斜路上に打ち上げられた浮遊物

地点番号 207 宮古漁港（左岸防波堤港内側の付け根）

位置：N39° 38′ 35″ E141° 58′ 31″

測定根拠：港内斜路の浮遊物

測定高：111cm（9月29日12時46分）

聞き取り事項：なし

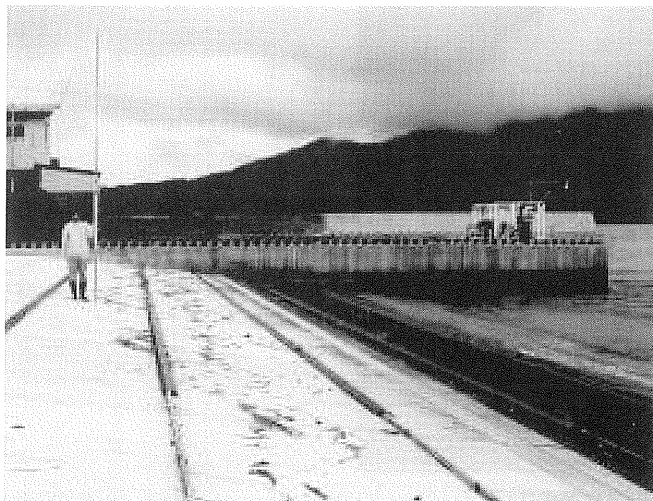


図 207-1 港内斜路上に打ち上げられた浮遊物

地点番号 208 宮古漁港

位置：N39° 38′ 29″ E141° 58′ 04″

測定根拠：目撃証言

測定高：80cm（9月29日8時56分）

聞き取り事項：岸壁から下る階段の上から2段目まで水位が上昇したとの証言

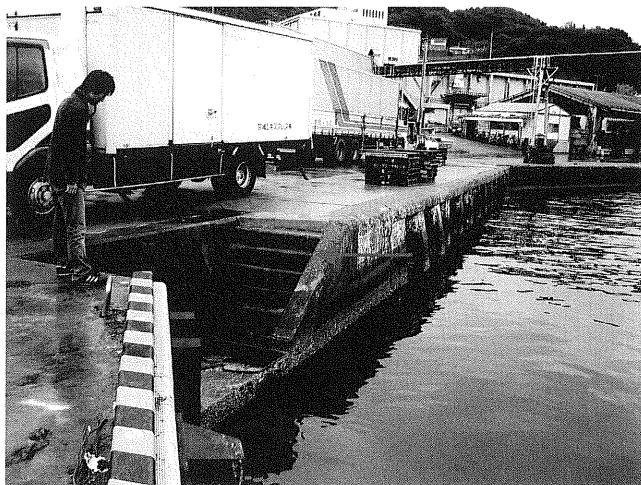


図 208-1 証言を得た岸壁の階段

地点番号 209 宮古湾赤前

位置 : N39° 35' 22" E141° 57' 40"

測定根拠 : 目撃証言

測定高 : 70cm (9月29日10時12分)

聞き取り事項 : 防潮堤前の海沿い道路が浸水したと証言

地点番号 210 広田湾長谷部

位置 : N38° 59' 34" E141° 37' 23"

測定根拠 : 目撃証言

測定高 : 112cm (9月30日12時10分)

聞き取り事項 : 漁港内の岸壁にゴミのラインを漁協職員が目撃したと証言

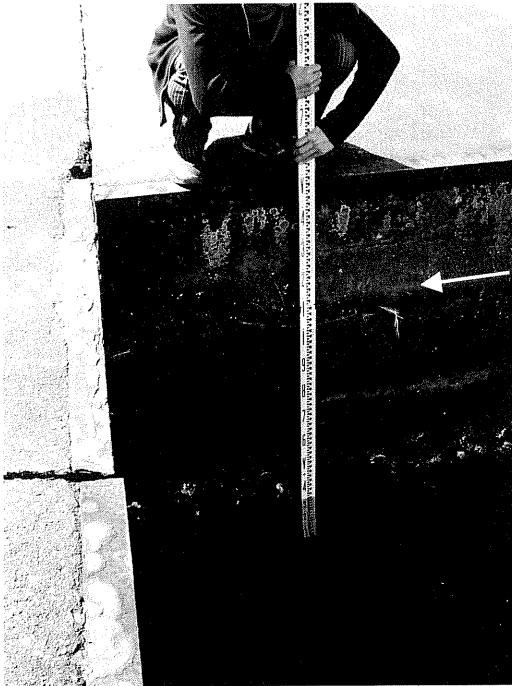


図 210-1 証言によるラインを測定

地点番号 211 気仙沼大島 外浜

位置 : N38° 53' 01" E141° 37' 21"

測定根拠 : 目撃証言

測定高 : 70cm (9月30日10時40分)

聞き取り事項 : 第1波は大きくなかったが、第2波で調査時(30日10:40)の水位より-170cmのところまで潮が引き、+70cmくらいの高さまで水が上昇したとの証言。これによりカキ筏のいかりが切れ、流された。

信頼度の低い測定

地点番号 212 日高門別川河口

位置 : N42° 28' 35" E142° 04' 24"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 140cm (9月26日15時40分)

聞き取り事項 : なし



図 212-1 砂浜に分布する浮遊物.

地点番号 : 213 厚賀町

位置 : N42° 25' 56" E142° 12' 28"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 130cm (9月26日16時15分)

聞き取り事項 : なし

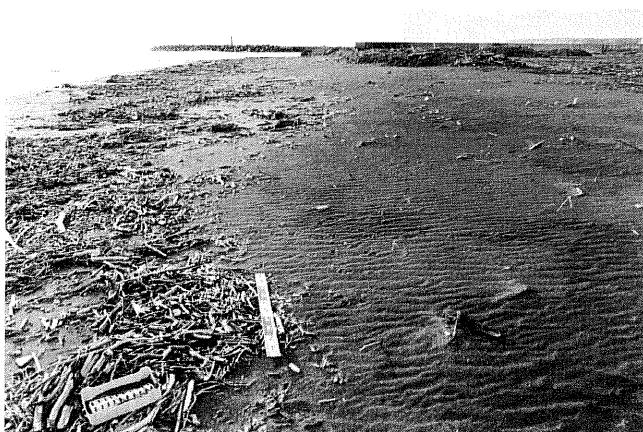


図 213-1 砂浜に分布する浮遊物, 風によるリップルマークを津波が消した.

地点番号 214 新冠町新冠川河口

位置 : N42° 21' 40" E142° 18' 26"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 195cm (9月26日16時54分)

聞き取り事項 : なし



図 214-1 段丘ぎりぎりにわずかな浮遊物が認められた。

地点番号 215 静内町静内漁港

位置 : N42° 19' 27" E142° 22' 18" (静内町入船町)

測定根拠 : 目撃証言。船揚場のコンクリート上のゴミ。

測定高 : 0 cm以下 (9月30日16時17分)

聞き取り事項 : 現在の潮位が津波痕跡より高い (船員による)。



図 215-1 静内漁港



図 215-2 船揚場のゴミの位置

地点番号 216 静内川河口右岸

位置 : N42° 19' 51" E142° 21' 55"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 185cm (9月26日17時40分)

聞き取り事項 : なし



図 216-1 砂浜に散在する浮遊物.

地点番号 217 静内川河口左岸

位置 : N42° 19' 38" E142° 22' 06"

測定根拠 : 浮遊物

測定高 : 127cm (9月26日17時20分)

聞き取り事項 : なし



図 217-1 砂浜に散在する浮遊物.

地点番号 218 生花苗沼 (沼側)

位置 : N42° 32' 47" E143° 29' 38"

測定根拠 : 砂浜の木片

測定高 : 207cm (基準点より測定)

聞き取り事項 : なし



図 218-1 津波が遡上した痕跡



図 218-1 底の泥が遡上した跡

地点番号 219 湧洞沼 (沼側)

位置 : N42° 35' 03" E143° 31' 56"

測定根拠 : 砂浜の木片

測定高 : 93cm (9月30日11時20分)

聞き取り事項 : なし



図 219-1 材などの浮遊物による水位上昇の痕跡

地点番号 220 長節沼（沼側）

位置：N42° 39′ 10″ E143° 36′ 33″

測定根拠：砂浜の木片

測定高：193cm（9月30日10時12分）

聞き取り事項：なし



写真 220-1 浮遊物による水位上昇の痕跡

地点番号 221 小本漁港の北

位置：N39° 51′ 01″ E141° 58′ 29″

測定根拠：目撃証言

測定高：218cm（9月28日15時02分）

聞き取り事項：なし

地点番号 222 宮古湾高浜

位置：N39° 36′ 12″ E141° 57′ 08″

測定根拠：目撃証言

測定高：50cm（9月29日9時29分）

聞き取り事項：漁師の防潮堤からの目撃証言

地点番号 223 音別漁港内

位置：N39° 35′ 55″ E142° 01′ 46″

測定根拠：目撃証言

測定高：100cm（9月29日12時10分）

聞き取り事項：港内の低い岸壁が浸水したとの証言

地点番号 224 山田湾石浜

位置：N39° 31′ 01″ E142° 01′ 45″

測定根拠：目撃証言

測定高：50cm (9月29日13時29分)

聞き取り事項：漁民の目測証言に基づく。

地点番号 225 山田湾大沢

位置：N39° 28′ 56″ E141° 58′ 34″

測定根拠：目撃証言

測定高：100cm (9月29日14時06分)

聞き取り事項：26日の9時頃、岸壁まで水位上昇したのを防潮堤から目撃したとの証言

地点番号 226 山田湾大沢

位置：N39° 28′ 54″ E141° 58′ 30″

測定根拠：目撃証言

測定高：70cm (9月29日14時10分)

聞き取り事項：漁協職員の証言

地点番号 227 山田湾山田町

位置：N39° 27′ 46″ E141° 57′ 21″

測定根拠：目撃証言

測定高：85cm (9月29日14時32分)

聞き取り事項：岸壁まで水位が上昇したとの証言

地点番号 228 船越湾吉里吉里

位置：N39° 22′ 17″ E141° 57′ 03″

測定根拠：目撃証言

測定高：70cm (9月29日15時06分)

聞き取り事項：漁協職員の証言

地点番号 229 両石湾両石

位置：N39° 18′ 24″ E141° 53′ 25″

測定根拠：目撃証言

測定高：55cm (9月29日15時25分)

聞き取り事項：岸壁まで0.2mの余裕があったと漁師の証言

地点番号 230 釜石湾内

位置：N39° 16′ 16″ E141° 53′ 12″

測定根拠：目撃証言

測定高：50cm (9月29日16時32分)

聞き取り事項：岸壁側面で0.5mの変動を観光船員が目測との証言

地点番号 231 大船渡湾

位置：N39° 03′ 33″ E141° 43′ 32″

測定根拠：目撃証言

測定高：20cm (9月29日17時13分)

聞き取り事項：約20cmの水位変動があったと漁師の証言

地点番号 232 門之浜湾漁港

位置：N38° 59′ 47″ E141° 43′ 05″

測定根拠：目撃証言

測定高：20cm (9月29日8時32分)

聞き取り事項：漁師の証言

地点番号 233 大野湾六ヶ浦漁港

位置：N38° 57′ 56″ E141° 42′ 24″

測定根拠：目撃証言

測定高：40cm (9月30日10時20分)

聞き取り事項：0.2mの水位変動で被害はないと漁師の証言

地点番号 234 広田湾矢之浦

位置：N38° 59′ 22″ E141° 40′ 12″

測定根拠：目撃証言

測定高：80cm (9月30日11時08分)

聞き取り事項：牡蠣の養殖被害があった漁師の目撃証言

参考値（津波が小さい事を確認）

地点番号 235 釧路港（西港）

位置：N42° 59′ 55″ E144° 19′ 48″

測定根拠：目撃証言

測定高：167cm以下（9月30日11時08分）

聞き取り事項：

- (1) 釧路サイロ西方の岸壁での工事中の作業員へのヒアリング 「岸壁は越えなかった。」
- (2) レストラン店員へのヒアリング 「13号倉庫で液状化」

地点番号 236 釧路市千代の浦漁港

位置：N42° 58′ 01″ E144° 23′ 35″

測定根拠：目撃証言

測定高：99cm以下（9月30日12時10分）

聞き取り事項：住民へのヒアリング「岸壁を越えていない。」

地点番号 237 根室港

位置：N43° 20′ 33″ E145° 35′ 12″

測定根拠：目撃証言

測定高：170cm以下（9月28日9時50分）

聞き取り事項：

- (1) 隣接するガソリンスタンドへのヒアリング「津波の浸水なし。地震の被害なし。」
- (2) 漁師へのヒアリング「地震発生10分後に漁船を避難させた。帰ってから聞いたところでは、水位は岸壁を超えず、浸水しなかった。」
- (3) 根室海上保安部へのヒアリング「根室半島より北側は津波の被害なし。根室港の道路に約2cmの段差が発生、標津漁港で液状化が発生。花咲港では陥没が発生。漁船も避難した。」

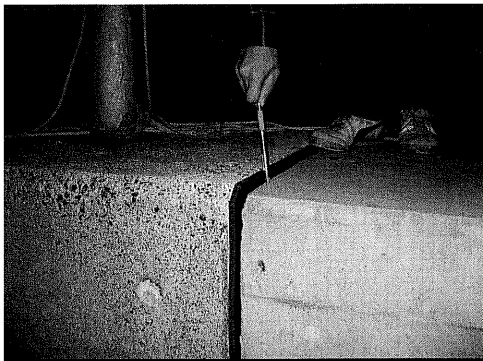


図 237-1 道路の段差

地点番号 238 齒舞港

位置：N43° 20' 25" E145° 45' 25"

測定根拠：目撃証言

測定高：170cm 以下（9月28日9時50分）

聞き取り事項：

- (1) 漁師へのヒアリング 「岸壁は越えなかった。午前7時頃、海面が上昇した。」
- (2) 漁師へのヒアリング 「3km沖合で海震を感じた。」

地点番号 239 温根元港

位置：N43° 23' 12" E145° 47' 21"

測定根拠：目撃証言

測定高：165cm 以下（9月28日10時10分）

聞き取り事項：根室市ウニ種苗生産センター職員へのヒアリング 「津波は岸壁を越えず、浸水しなかった。」

地点番号 240 野付漁港

測定根拠：目撃証言

測定高：津波なし（9月27日）

聞き取り事項：漁協職員へのヒアリング 「岸壁は越えなかった。津波が来ていたとしても風波と区別がつかない程度。野付半島がバリアになっている。」

地点番号 241 尾岱沼漁港

位置：N43° 34' 05" E145° 13' 21"

測定根拠：目撃証言

測定高：津波なし（9月27日15時00分）

聞き取り事項：漁師数名へのヒアリング 「津波来襲後に戻ってきても浸水の形跡は見当たらなかった。」